

2021年度 豊岡市環境報告書

コウノトリと暮らす豊岡の環境



但東の自然に触れる (P12)



使い捨てプラスチックごみゼロを目指して (P31)



竹野海岸清掃活動 (P19)

▲第2部 TOPICS より

2023年1月
豊岡市市民生活部生活環境課
地球温暖化防止対策室

******* 目次 *******

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について (P1~4)

第2部 「目標とする姿」への取組み状況 (P5~38)

第3部 豊岡市の環境の状況 (P39~52)

第4部 市の取組み実績 (P53~66)

第5部 環境審議会意見の反映状況(市の取組み) (P67~78)

**第6部 2021年度の環境に関する取組みについて
豊岡市環境審議会の意見(今後の取組みに向けて) (P79~84)**

第1部 豊岡市環境基本計画と環境報告書について

■豊岡市環境基本計画について

2016(平成28)年度に見直しを行い、第2次環境基本計画を策定しました。

第2次環境基本計画の体系図は、次頁のとおりです。計画の基本理念・基本方針をもとに、10年後に到達すべき10個の「目標とする姿」を描き、それを実現するための具体的な方向性と行動指針を定めています。

■環境報告書について

この「豊岡市環境報告書」は、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」に基づき、毎年、環境の状況や計画の取組み状況等について、豊岡市環境審議会の意見を付して公表するものです。

今回の環境報告書の取りまとめにあたっては、第2次環境基本計画の10個の「目標とする姿」への達成状況を、それぞれ「よくがんばりました」・「この調子でがんばろう」・「もっとがんばろう」の3段階で評価しました。

豊岡市環境基本計画の体系

■基本理念（第2章）

計画を進めるにあたっての基本的な考え方は次のとおりです。

- 1 豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。
- 2 良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。
- 3 地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

私たちは、次の6つの合言葉をいつも気にしながら行動します。

「もったいない」「ちょっとでも」「ばちがあたる」
「心地よい」「つなぐ」「自信・誇り」

■目標とする姿（第3章）

長期的な視点のもと、みんなで取り組みを進めて10年後に到達すべき目標像。

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます
- ② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声が聞こえてきます
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています
- ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています
- ⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

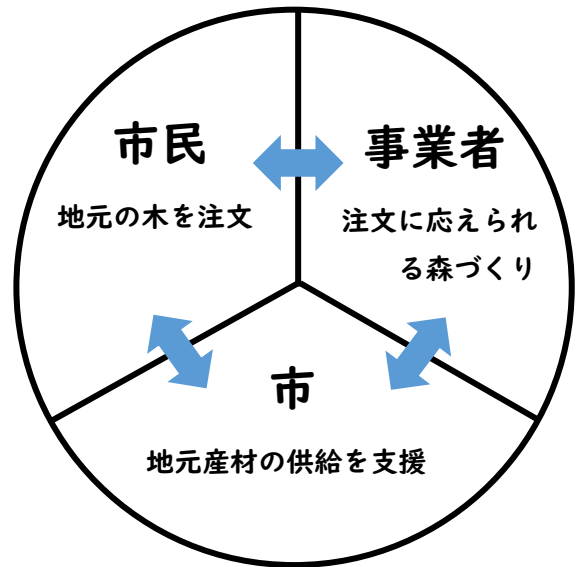
■基本方針（第2章）

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針。

- 1 自然・文化・歴史的資源の理解と保全
- 2 人と生きものがバランスよく共生するまちづくり
- 3 資源の無駄遣いをなくす循環型のまちづくり
- 4 環境意識を高める環境にやさしい人づくり
- 5 環境行動を持続的にする取り組み
- 6 地球環境の保全に貢献

【注釈】 第2次豊岡市環境基本計画は、2017（平成29）年度から10年間の計画です。
「目標とする姿」は、2027年度の豊岡市の姿を想定しています。

取組みの方向(下記)に掲げる一つひとつの課題に関して、市民、事業者、市が連携してみんなで取り組みます。



【来訪者に求めること】

来訪者にも豊岡に滞在中は、市民等と同様に、環境を良くするための行動を求めます。

■取組みの方向（第5章）

「目標とする姿」を実現するため、市民・事業者と市が、みんなで協力して取組みを進めていく方向を示す。

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

関連する目標像

(目標像①～⑩)

- 1…①②⑤⑦⑩
- 2…④⑤⑦⑧⑩
- 3…②③④⑤⑦⑩
- 4…①②③⑤⑦⑩
- 5…①②③④⑤⑦⑩
- 6…①⑧⑨
- 7…④⑤⑥
- 8…④⑤⑥⑦
- 9…①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- 10…③⑤⑦⑩
- 11…④⑧
- 12…⑧⑨
- 13…②③⑩
- 14…③⑤⑦⑩

第2部 「目標とする姿」への取組み状況

■取組み状況について

「目標とする姿」一つひとつについて、2021年度を含む「主な指標の変化」(2007年度～)と2021年度の特徴的なトピックスを掲載し、現時点での取組み状況の評価を行っています。

【評価方法】

「よくがんばりました」……○が3つ以上

「この調子でがんばろう」…○が1～2つ

「もっとがんばろう」……○と▲が同数、または▲が多い

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動が「規模を縮小しての開催」、または「中止」となりました。

そのため、「参加者数、利用者数、実施数」など、評価の対象として検討が困難なものについては、2021年度においても一部評価の対象から外しています。

■目標とする姿（第3章）

- ① 手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます . . . p.7
- ② 里山が様々に利用され、関わる人が増えています . . . p.10
- ③ 使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています . . . p.13
- ④ あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます . . . p.17
- ⑤ コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています . . . p.20
- ⑥ 様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています . . . p.23
- ⑦ 子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています . . . p.26
- ⑧ 市民みんなが、ごみの減量化を実践し、
一人あたりの排出量が徐々に減っています . . . p.29
- ⑨ 市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、
再生可能エネルギーの利用も増えています . . . p.32
- ⑩ 環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています . . . p.35

■取組みの方向

- 1 森林を利用し、保全します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します
- 4 農林水産業の新たな担い手を育成します
- 5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します
- 6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります
- 7 地域の文化や景観を保全し、活用します
- 8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます
- 9 環境意識を高める学習・教育を進めます
- 10 環境に関する知を集積し、活かします
- 11 ごみの減量・再資源化を進めます
- 12 省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を増やし、地球温暖化防止に努めます
- 13 地産地消を進めます
- 14 環境と経済の共鳴を進めます

目標像①

手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

【主な取組みの方向】

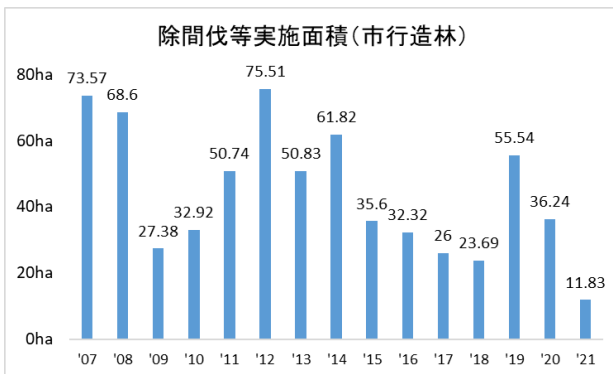
(1) (4) (5) (6) (9)

【具体イメージ】

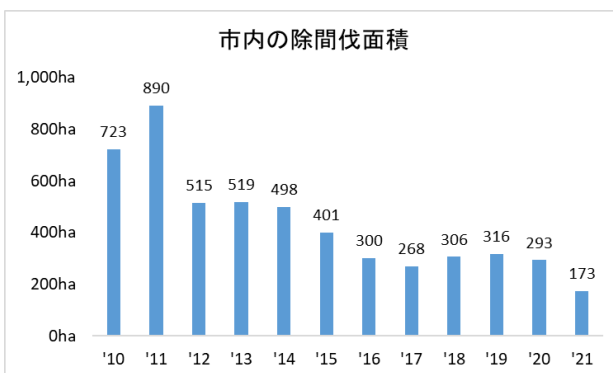
スギやヒノキの林は保育され、広葉樹も植えられています／木材の利用が増えています／パレットストーブなどの利用が家庭や事業所に広がっています

I 主な指標の変化(2007~2021年度)

(1) 除間伐と植樹



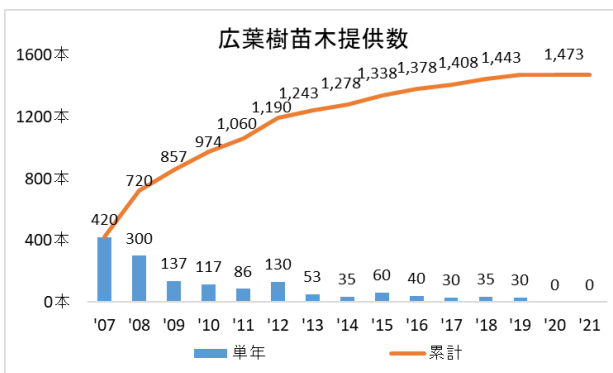
- ・下草の生えた豊かな森林を育てるため、太陽の光が木の根元や地面まで十分に届く環境をつくる「除間伐」を行っています。
- ・「林業の担い手不足」が、間伐面積減少理由の一つに挙げられます。



- ・市、ひょうご農林機構、民間すべての分収造林を含みます。

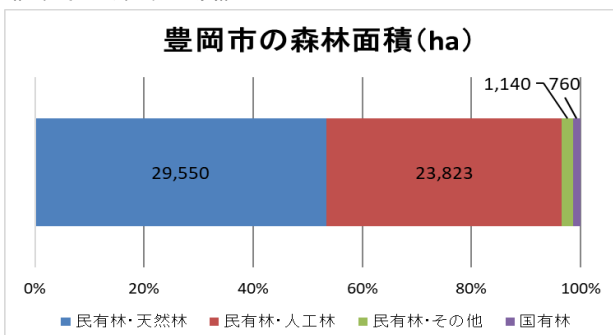
【分収造林】

造林者と土地所有者が異なり、両者が造林による収益を分け合う契約をした山林



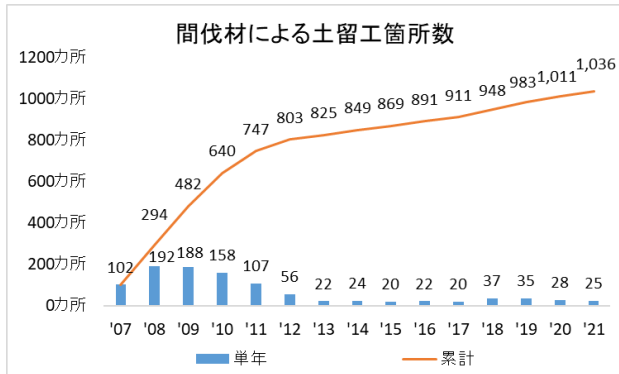
- ・針広混交林化に向けて、広葉樹の植樹を進めています。落葉等で土壌が肥沃になるとともに、下層植生の成長を促し、土壌浸食等の防災効果が高まることが期待されます。また、種組成が豊富になったり、伐期がずれることで長期収入にもつながります。

《所有別森林面積》

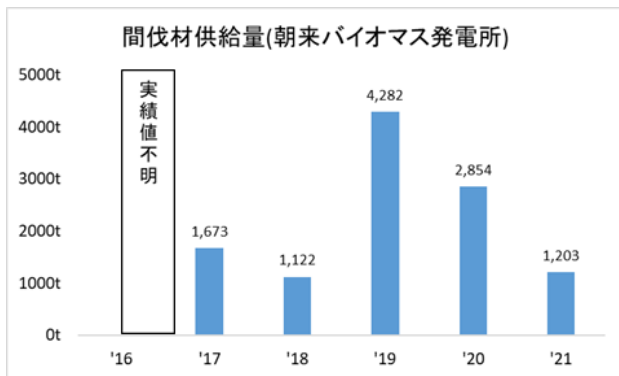


- ・豊岡市の森林面積のうち、約9割が民有林となっています。その内、コナラ林などの天然林が約50%、スギ・ヒノキ林などの針葉樹林が約40%となっています。【出典：兵庫県林業統計書(2022.3月発行)】

(2) 間伐材の利用

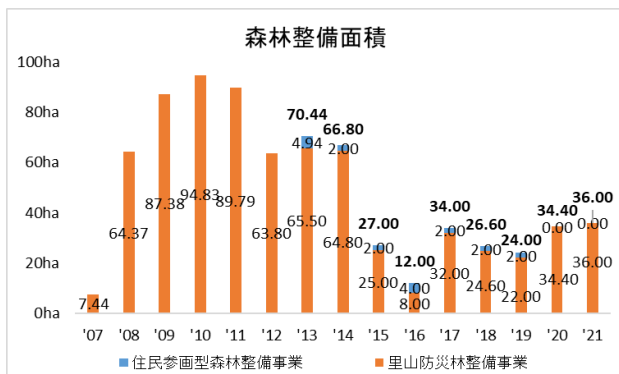


- ・間伐材をそのまま地滑り防止に活用する「土留工」を行っています。

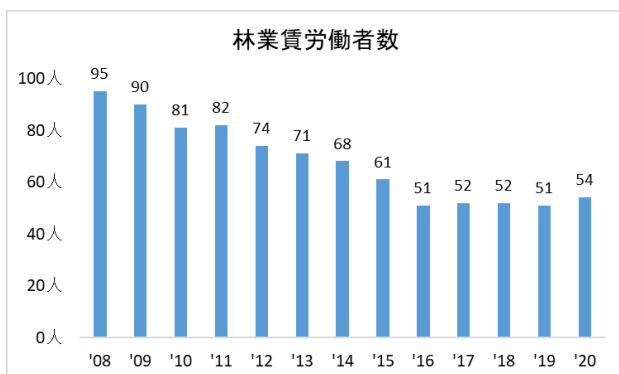


- ・豊岡コウノトリ森林組合から搬出された原木やチップが、朝来市の「バイオマスエネルギー材供給センター」を通じて、朝来バイオマス発電所(2016年12月運転開始)に供給されています。
- ・2019年度は、ペレット原料として市内でストックしていた間伐未利用材を加えて供給したため、一時的に供給量が増えています。
- ・2020年度からは通常の供給体制に戻っていますが、世界的な木材需要の高まりにより、用材としての供給が増え、燃料としての供給が減っています。

(3) 森林の整備

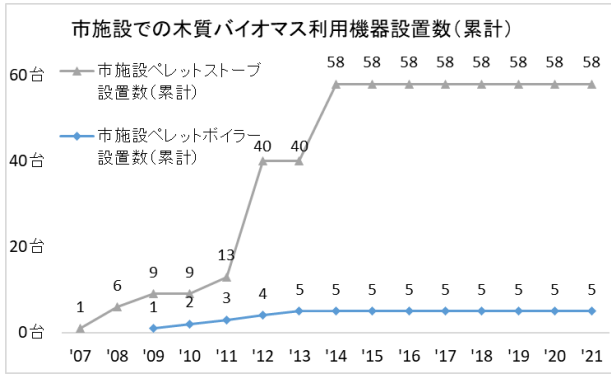


- ・住民参加型森林整備事業は、竹林、枯れ松、危険木伐採等により、集落の安全を確保する1カ年事業です。
(事業主体：兵庫県、実施主体：区、地域)
- ・里山防災林整備事業は、人家裏山の凹型斜面の崩壊、崩落を防ぐため、危険木伐採や簡易防災施設(丸太柵工等)整備を行います。2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します。
(事業主体：兵庫県、実施主体：林業事業体)
- ・2015年から豊岡市以外の地域でも里山防災林整備事業が進んだことによる予算配分のため、豊岡市での里山防災林整備面積が減少しています。

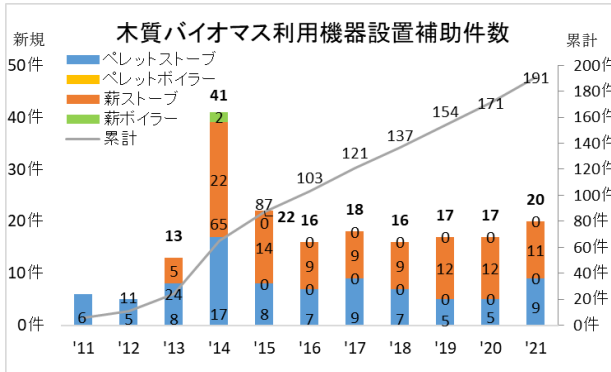


- ・林業就業人口は、2008年から2020年にかけておよそ40人減少しています。【出典：兵庫県林業統計書 2008年度～2021年度発行】
※1年度遅れでの発行となっている。
※林業賃労働者の定義は、年間50日以上現場(森林)で作業された方

(4) 木質バイオマス機器の利用



・2014年以降、公共施設への木質バイオマス利用機器の設置は行っていないが、既に設置されている機器を積極的に活用していきます。



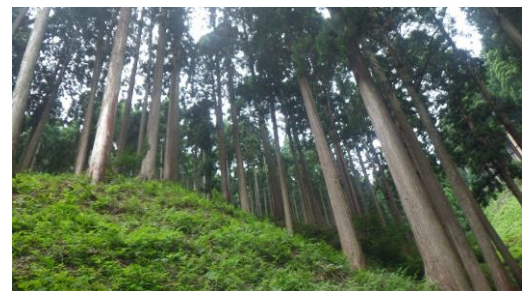
・木質バイオマス(薪、木質ペレット)を燃料に利用するストーブ、ボイラーの利用を進めています。個人住宅、区の集会所、事業所を対象に補助しています。

Topics

森林に手が入らないとどうなる？

森林は、土砂崩れを防ぐ機能や大雨時に水をためる水源かん養機能、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を抑制する機能、豊かな生態系を守る機能など、たくさんの恩恵を人や生きものに与えています。しかし、森林が放置され続けると、木々の茂りすぎにより地表に太陽の光が届かず、下層植生が育たなくなることで、土砂崩れを防ぐ機能や水源かん養機能が失われます。また、木々が込み合うことでお互いの成長を阻んでいる状況は、二酸化炭素の吸収量の低下につながります。

こうした問題を防ぎ、解決していくためにも間伐が欠かせません。適切な間伐を行い、森林の更新を促し続けられる森林マネジメントが求められます。



2 2021年度評価

評価

- 住宅への木質バイオマス利用機器の設置が広がりつつある。
- ▲間伐材が「用材」として供給・利用されているものの、間伐面積が減少しています。

もっと
がんばろう

目標像②

里山が様々に利用され、関わる人が増えています

【主な取組みの方向】

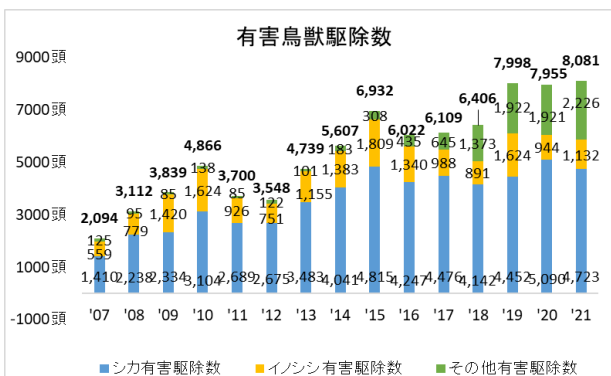
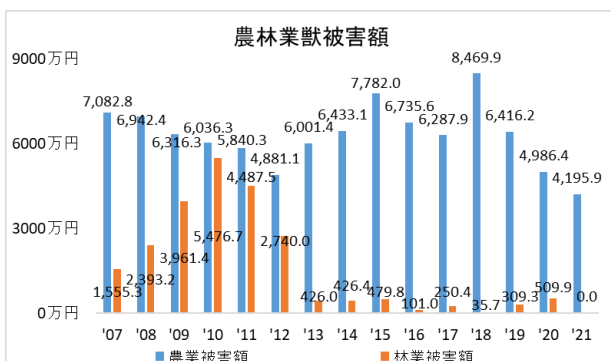
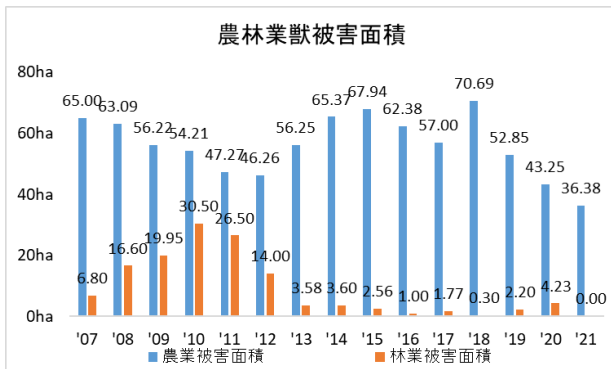
(1) (3) (4) (5) (9)
(13)

【具体イメージ】

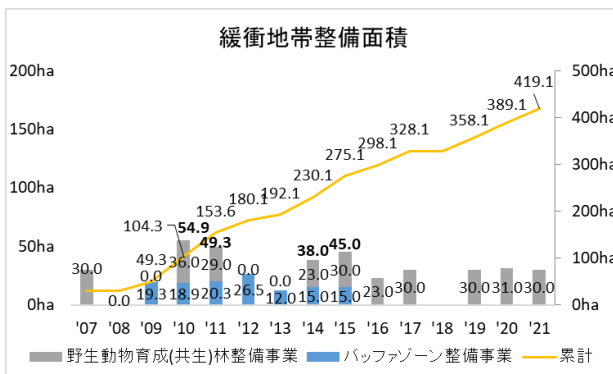
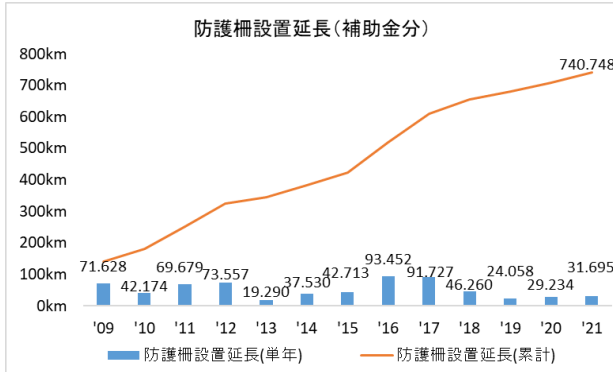
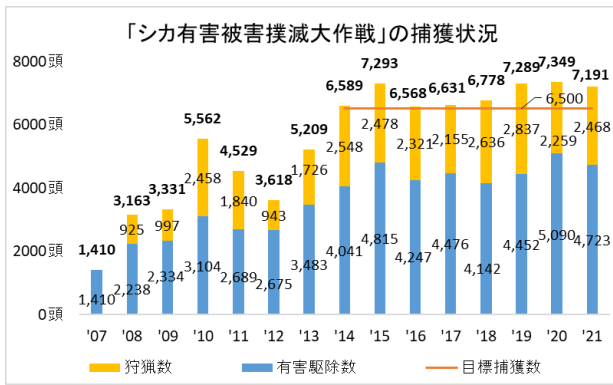
安心して散策を楽しめる里山が増えています／食用の山菜やキノコの知識をもった市民が増えています／森林ツーリズムなどを楽しむために森に入る人が増えています／イノシシやシカは適切に駆除され、肉や皮も多様に活用されています

I 主な指標の変化(2007～2021 年度)

(1) 有害鳥獣対策



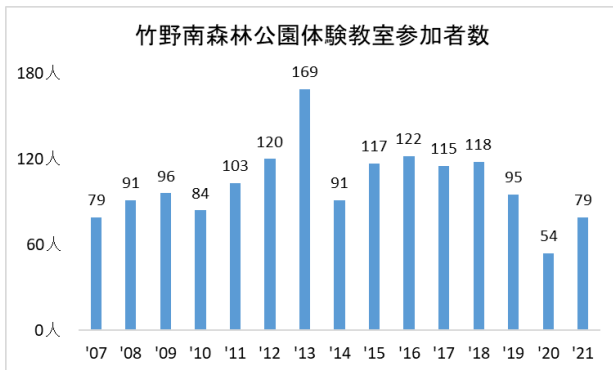
- ・ 林業被害のほとんどはシカによるものですが、2021年度の有害獣林業被害は確認されませんでした。
- ・ 農業被害は、シカやイノシシの他にサルなどの小動物によるものもあります。
- ・ 山奥から人里近くに被害が広がってきています。
- ・ 農家アンケートのため、家庭菜園等の被害は含まれません。
- ・ 2021年度は有害鳥獣駆除数が8,000頭を超えています。
- ・ 「有害鳥獣駆除数」グラフは、有害鳥獣駆除のみの数値で、11月から3月までの狩猟期に個人が捕獲したものは含まれていません。
- ・ 「その他有害駆除数」には、タヌキやアライグマ、ヌートリア、カワウなどが含まれます。
- ・ シカ数は減少してきているものの、ヤマビルやマダニの生息域や個体数が増加しており、今後被害が増加していくことが懸念されます。



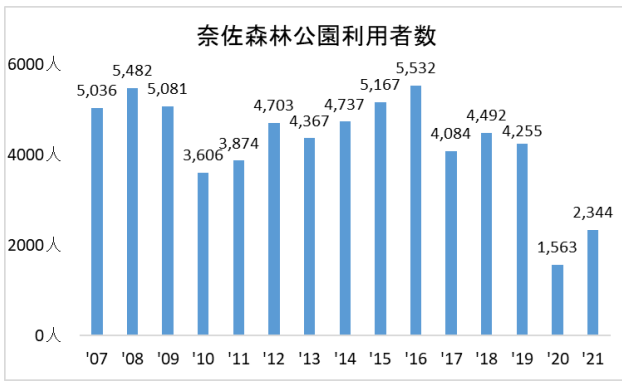
- ・兵庫県が策定する「ニホンジカ管理計画」に基づき、市では、2014年から年間捕獲数6,500頭を目標に、「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施しています。
- ・「狩猟数」は、狩猟期(11月～3月)に個人が捕獲した頭数です。
- ・「有害駆除数」は、一般、専任班、捕獲実施隊(市鳥獣害対策員と市担当で編成)が、有害獣として捕獲、駆除した頭数です。
- ・鳥獣保護管理法に基づき、捕獲物等は原則として持ち帰ることとし、やむを得ない場合に限り生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設することとされています。

- ・このグラフの緩衝地帯(バッファゾーン)は、野生動物との住み分けを図るため設けられる、幅約20mの見通しの良い地帯を言います。
- ・バッファゾーン整備事業は2009～2015年度まで実施(事業主体：豊岡市)。
- ・野生動物育成(共生)林整備事業は、緩衝地帯と集落防護柵を一体整備する2カ年事業で、1年目に調査、2年目に整備します(事業主体：兵庫県)。
- ・2018年度は調査だけのため実績がありません。

(2) 森林公園の利用

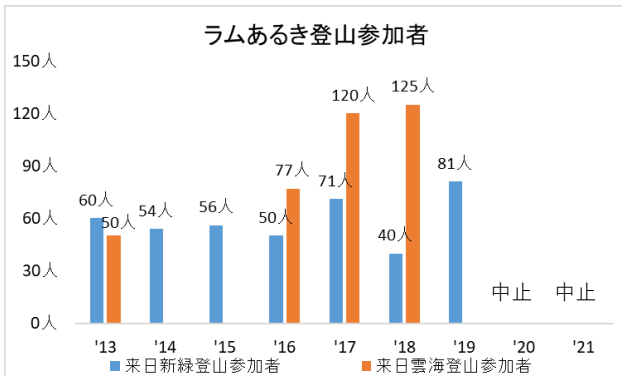


- ・竹野南森林公園では、毎年季節に合わせた体験教室を実施しています。
- ・2020年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、参加者数が減りましたが、2021年度は回復しています。



- ・奈佐森林公園においても、2020年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、利用者数が減りましたが、2021年度は回復しています。

(3) 森林ツーリズム



- ・2012年に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約に登録された翌年から、来日山の山頂からラムサール条約湿地を眺めるイベント「ラムあるき登山」を、5月と10月に地元主催で実施しています。
- ・2020年度および2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、新緑登山、雲海登山ともに中止となりました。

Topics

「但東 野あそびくらぶ いつなっと」の活動

「但東 野あそびくらぶ いつなっと」は、自然離れの進む子どもたちに「もっと身近な自然を知って好きになってもらいたい」という思いのもと設立された団体です。草花あそびや出石川の生きものしらべ、竹ご飯づくりなど、里山での自然観察会+体験活動を通して自然の面白さや、生きものたちが複雑に繋がって私たちの生活が支えられていることを伝えています。

また、有害鳥獣として市内で捕獲されたシカやイノシシの肉を参加者の皆さんと調理して美味しく食べながら、山の現状を知り、考えてもらうきっかけ作りにも力を入れています。地域の皆さんのご協力を得ながら、但東の自然と文化を大人も子どもも一緒に体験し、伝えていきたいと活動中です。

子どもたちがいきいきと誇りを持って成長していくことが私たちの願いです。



(文・写真 但東 野あそびくらぶ いつなっと)

2 2021年度評価

評価

- シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6,500頭を達成している。
- 有害鳥獣の捕獲や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業被害面積や被害額は減少している。

この調子で
がんばろう

目標像③

使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

【主な取組みの方向】

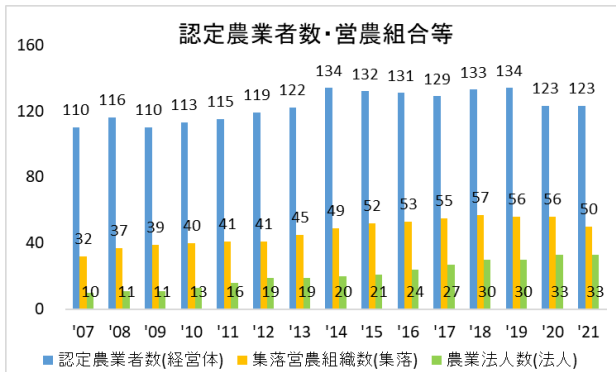
(3) (4) (5) (9) (10)
(13)

【具体イメージ】

農薬や化学肥料に頼らない農業が広がっています／就農する若い人が増えています／学校や家庭の食卓に豊岡でとれた安全安心な食材が並んでいます／多様な生きものと触れ合う子どもの姿をよく見かけます／ビオトープ水田など様々な使われ方で農地が活かされています

I 主な指標の変化(2007~2021年度)

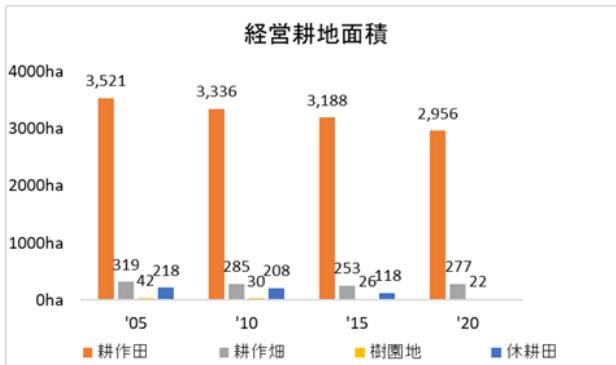
(1) 豊岡の農業の現状



・就農者の高齢化や減少が進む中で大規模集約化の方向にあります。

【認定農業者】

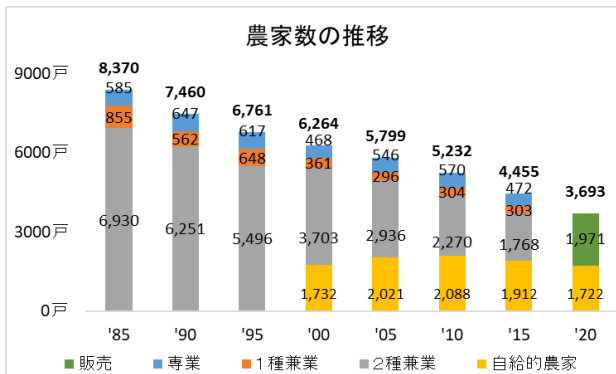
農業経営改善計画を市町村に提出し、認定を受けた農業経営者・農業生産法人



【経営耕地面積】

農家が経営する耕地の面積

2020年から集計方法が変更。経営耕地のある経営体の数と経営耕地面積を把握（休耕地面積は把握せず）



・2000年以降の専業、兼業農家は「販売農家」に限られ、自給的農家の専業別調査が簡素化されました。

・2020年から集計方法の変更に伴い、専業、兼業別の把握が廃止となり、「販売農家」の枠組みでの把握となっています。

・高齢化や担い手不足により農家数が減少していると考えられます。

・「経営耕地面積」及び「農家数の推移」は、5年に一度行われる農林業センサスの結果を記載しています。

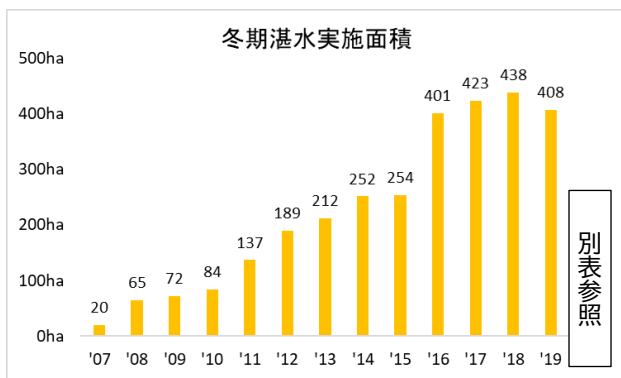
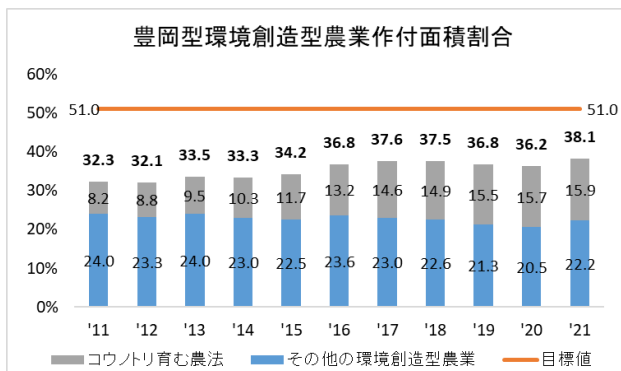
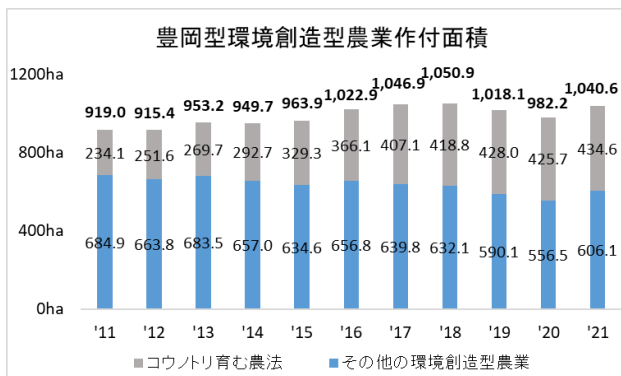
【第1種兼業農家】 農業所得を主とする兼業農家

【第2種兼業農家】 農業所得を従とする兼業農家

【販売農家】 経営耕地面積が30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家

【自給的農家】 経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家

(2) 環境にやさしい農業



・「コウノトリ育む農法」をシンボルに、新たな栽培方法を導入するなどして、「豊岡型環境創造型農業」〔農薬、化学肥料 50%以上減(慣行農法比)〕の普及拡大を図っています。

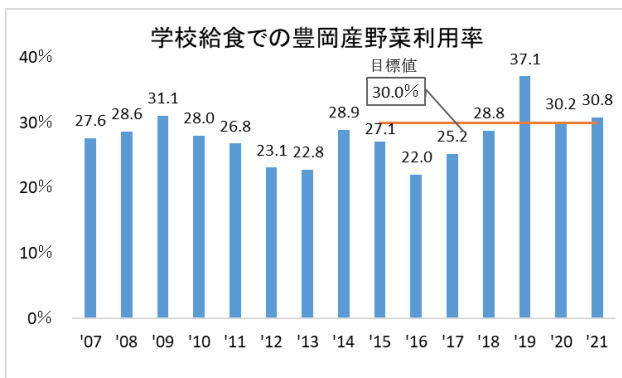
・冬期湛水は、冬にも田んぼに水を張ることです。生きものが豊かになり肥料分を含むトロトロ層(2~5cm)ができることで雑草の種子が発芽しにくく、抑草効果もあります。

・2020年度から、冬期湛水実施面積のデータ元である環境保全型農業直接支払交付金の制度変更に伴い、集計方法が変更となったことから、実施面積が減少しました(別表で記載)。

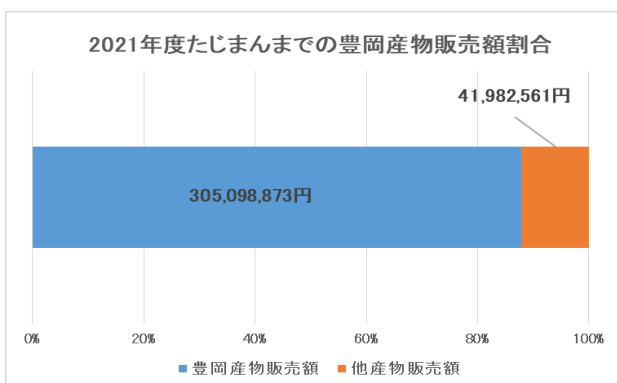
《2020年度以降の冬期湛水面積》

年度	2020年度	2021年度
面積	338ha	342ha

(3) 地産地消

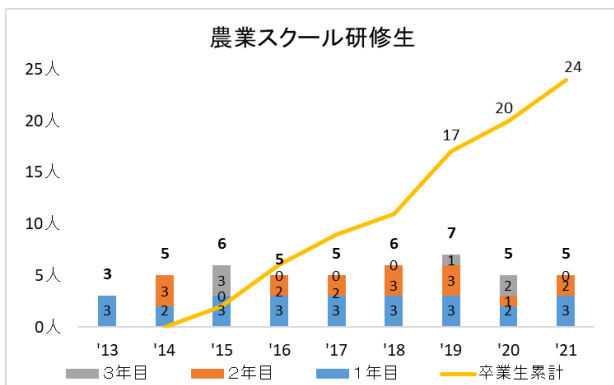


- ・豊岡産野菜は、「国民健康・栄養調査(厚生労働省)」の野菜の定義に則っています。いも類、果実類、きのこ類は含まれません。
- ・利用率は重量で計算しており、2015年度から「30%以上の利用」を豊岡市独自の目標として設定しています。
- ・地元生産者がピーマンなどを寄付する、児童たちが自分たちで作った野菜を調理して食べるなどの取組みも行われています。
- ・2016年度から、週5回全ての米飯給食でコウノトリ育むお米(減農薬)を利用しています。



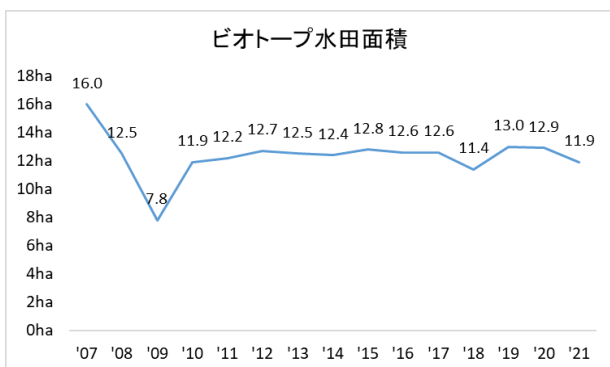
- ・2021年度のたじまんま豊岡店における豊岡産物販売額(生産者からの委託販売分)割合です。野菜や花、加工品が含まれます。

(4) 農業スクール研修生



- ・新規就農希望者が、就農に必要な生産技術と経営能力の習得を目指し、1年間(更新で最長3年間)学びます。
- ・卒業生は、雇用就農、独立自営就農とそれぞれ市内で就農しています。
- ・2021年度は4名が卒業しました。

(5) 休耕田の利活用



- ・多様な生きものを育む「ビオトップ(生きものがすむ場所)水田」として市と管理委託契約を結んでいます。
- ・ビオトップ水田から田んぼに復田することもあります。
- ・小学校区ごとの面積及び2021年度に面積が減少した理由については、目標像⑦(p.28)に掲載しています。

「グッドローカル農業推進室」発足

2021年4月、市役所農林水産課に「グッドローカル農業推進室」が発足しました。豊岡市農業ビジョンにて定めた農業の将来像「豊岡グッドローカル農業（GLA）＝『環境』『経済』『社会』をより良くし、持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する農業のあり方」を推進しています。農業ビジョンでは、『環境』『経済』『社会』の視点ごとに4つずつ、グラフ記載の12の農業の姿（12要素）を設定し、“みんな”で各要素の実現に貢献する取組を行うことで「豊岡グッドローカル農業」を目指します。

「コウノトリ育む農法の面積を広げる」
 「農業の担い手を確保、育成する」「地元農産物の消費を心がける」「豊岡の農業・農村の魅力を発信する」など、豊岡市の農業に関わるすべての人々が、各自の立場や状況に応じて、できることから取り組むことが大切です。

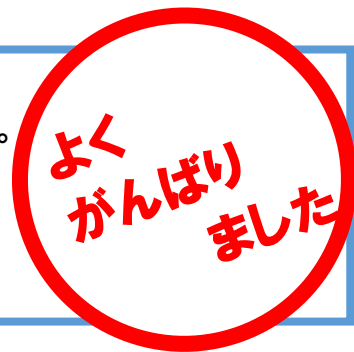
取組の輪を広げ、長期的には、「豊岡グッドローカル農業」が全国に知られ、世界に認められ、豊岡の農業や都市の価値が高まることを目指します。



2 2021年度評価

評価

- 学校給食での豊岡産野菜利用率が目標利用率を達成している。
- たじまんま豊岡店での委託販売における豊岡産物割合が8割を超えている。
- 豊岡型環境創造型農業作付面積及び割合が増加している。



目標像④

あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な取組みの方向】

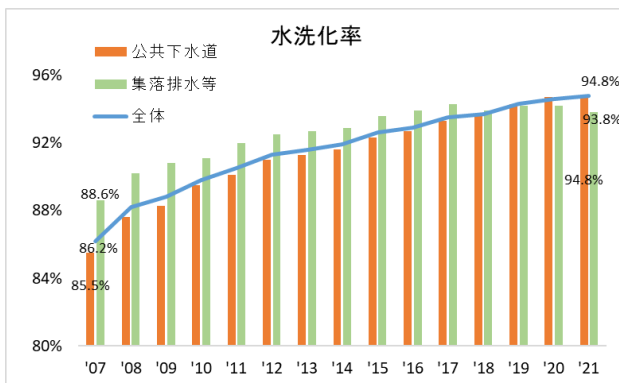
(2) (3) (5) (8) (9)
(11)

【具体イメージ】

市民みんなの協力で川や海がきれいになりました／ポイ捨てをしないという意識が高まり水辺のごみが少なくなっています／水質が改善し、川にはたくさんの魚が泳いでいます／子どもたちが日常的に魚をとったり水辺で遊ぶ姿を見かけています

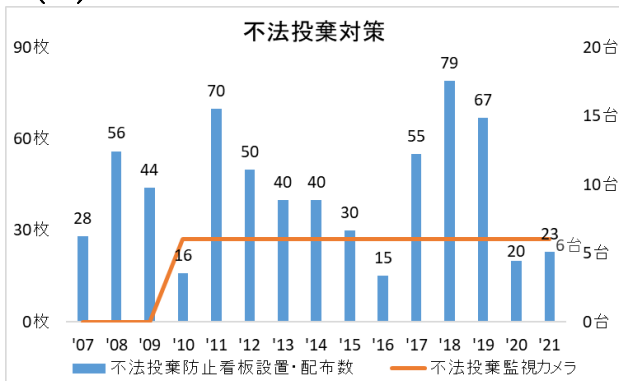
I 主な指標の変化(2007~2021年度)

(1) 川の水質保全



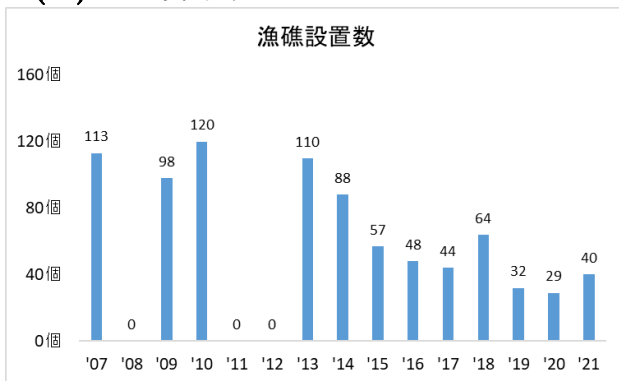
- ・河川の水質浄化につながる「水質浄化率」は、95%を目標にしています。

(2) 不法投棄対策

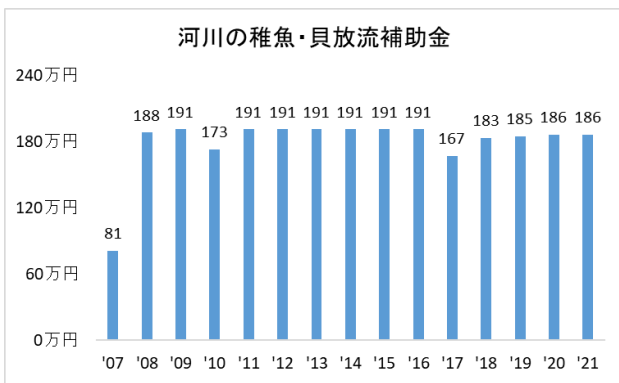


- ・不法投棄防止看板や監視カメラを河川敷や峠などに設置しています。
- ・家庭ごみから自転車まで、さまざまなごみが捨てられています。
- ・市のパトロール班が定期的に巡回しています。

(3) 水産資源保全

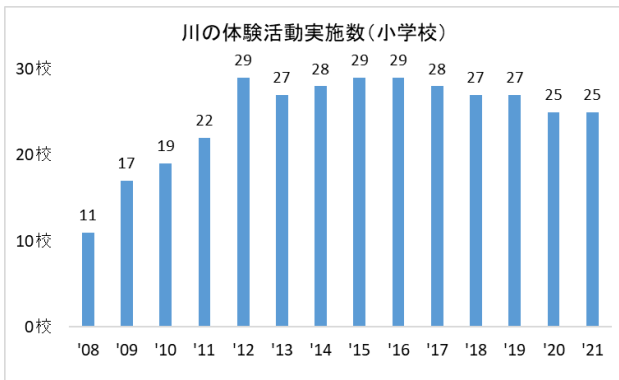


- ・漁礁は、魚類の繁殖と生活のために人為的に海中など水中に設置される魚類のすみか(巣)や集まる場となるものです。
- ・2019年度は漁礁設置効果調査が実施されたり、設置する漁礁のサイズが大きくなったことにより設置数が減っています。
- ・2020年度も2019年度と同様の漁礁サイズです。



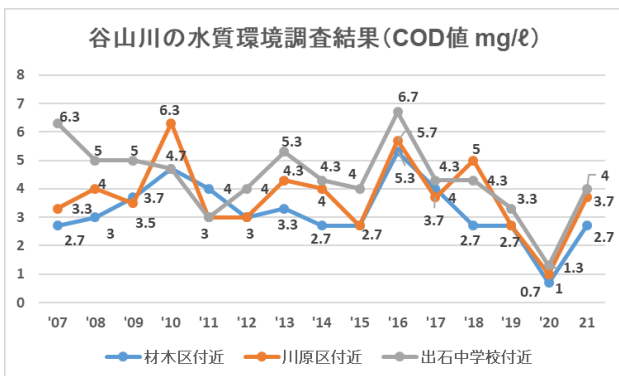
- ・豊岡市が、円山川漁業協同組合(アユ、ハマグリ)と竹野川漁業協同組合(アユ、アマゴ)に補助しています。

(4) 子どもたちの体験活動等



- ・2007年度に兵庫県下で「環境体験学習(小学3年生対象)」が導入されたこともあり、授業で自然体験が取り入れられています。
- ・学校での活動の他、民間団体等も体験活動を実施しています。

※市内の小学校数は、2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校



- ・国土交通省が毎年実施している「身近な水環境の全国一斉調査」に併せ、2007年度から環境ネット出石が子どもたちと一緒に谷山川の水質調査や生きもの調査を実施しています。
- ・CODとは水中の有機物残存量を示すもので、値が低いほど水質が良いということを示しますが、直前の天候や水量によって数値に影響が出る場合があります。

(5) 清掃活動

川沿いや海水浴場のある浜などで、地域住民やボランティアなどによる清掃活動が毎年行われています。2021年度においては、「円山川菜の花の会」による円山川での清掃活動が規模を縮小して開催されたり、豊岡総合高校インターアクトクラブ主催の竹野海岸漂着ごみ回収(約180人が参加)が開催されるなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら清掃活動を実施されました。

また、新たな清掃活動として、豊岡小学校の学年PTA活動での竹野海岸清掃活動が行われました。近畿大学附属豊岡高等学校の自然科学部と連携しており、単に清掃活動をするだけでなく、環境問題について実情に触れ、学びながらの活動となりました。2021年度は豊岡市主催の清掃活動(竹野海岸)も実施しており、今後も事業展開していきます。ボランティアで清掃活動をしてくださる市民や事業者がいることで、海や河川がきれいに保たれています。回収されている方々を頼るだけでなく、すべての人が【ごみを出さない】という努力をすることも求められます。

《活動例》

川清掃

清掃場所	活動主体	活動実施日
円山川河川敷	円山川菜の花の会	4月29日
谷山川	谷山川を育む会・まもり隊	毎月10日
	豊岡市商工会出石支部	年1回

浜清掃

清掃場所	活動主体	活動実施日
気比の浜、田結の浜	港中学校、港小学校、港認定こども園、区長会等	6月26日
竹野海岸	竹野海岸ボランティアクラブ 豊岡総合高校インターアクトクラブ	3月21日
	豊岡小学校学年PTA活動	11月23日
	豊岡市	10月9日

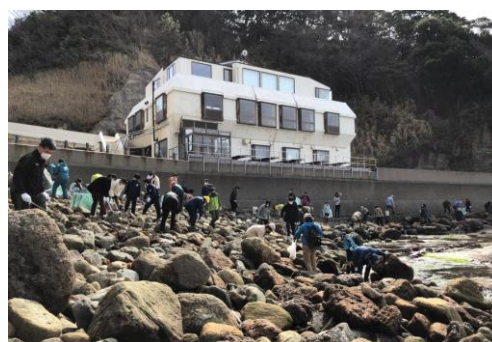
竹野海岸での清掃活動

Topics

竹野海岸や竹野浜では、毎年多くの方が清掃活動を実施されます。言い換えると、毎年清掃活動をしなないといけない程、多くのごみが漂着しているということです。

豊岡総合高等学校インターアクトクラブの主催で実施された清掃活動では、市内外から約180人の方々が集結し、漁具の浮きやロープ、ドラム缶やたくさんのペットボトルなど、2トントラック2台分のごみを回収しました。しかし、地面を埋め尽くすほどの細くなった発泡スチロールなどは完全に取りきることは出来ません。

誰もが「まずは出さない」という意識を持つためにも、定期的に清掃活動を展開し、関わる人を増やしながら、透き通るような美しい竹野の海を守っていきます。



2 2021年度評価

評価

- 子どもたちの川での体験活動が定着している。
- 清掃活動に取り組む方々が増えている。
- ▲不法投棄を減らすための対策を講じているが、状況は改善していない。

この調子で
がんばろう

目標像⑤

コウノトリも住める豊かな生態系が、バランスよく保たれています

【主な取組みの方向】

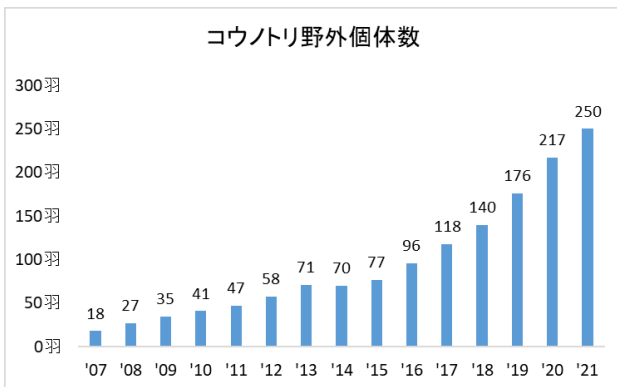
(1) (2) (3) (4) (5)
(7) (8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

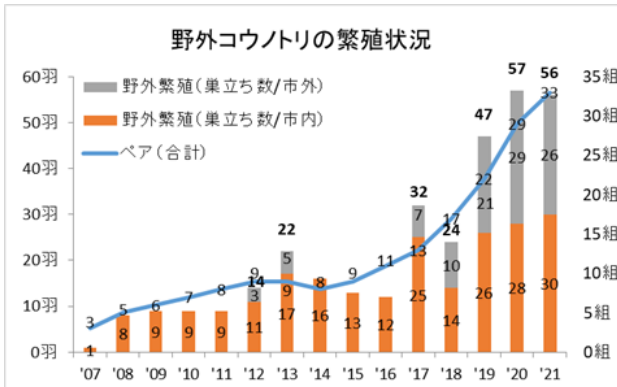
コウノトリ育む農法や市民に守られた湿地が市内全域に広がっています／コウノトリのエサになる生きものが増え、生態系のバランスが保たれています／コウノトリが市内各地に舞い降りています／コウノトリも住める豊かな環境づくりの取組みがさらに進んでいます

I 主な指標の変化(2007～2021 年度)

(1) 野外的コウノトリの状況

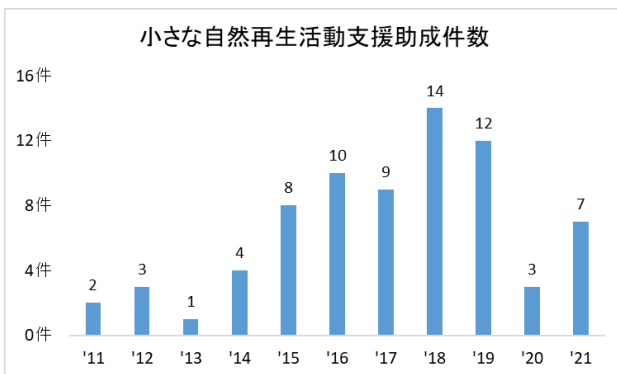


- ・2005年の試験放鳥から、野外コウノトリの自然繁殖も進み、個体数は順調に増加しています。
- ・野生復帰したコウノトリは、市内だけでなく、全国各地を訪れています。2017年度には、47都道府県全てでコウノトリの飛来が確認されました。
- ・常時60羽程度のコウノトリが市内に生息していると推測されています。

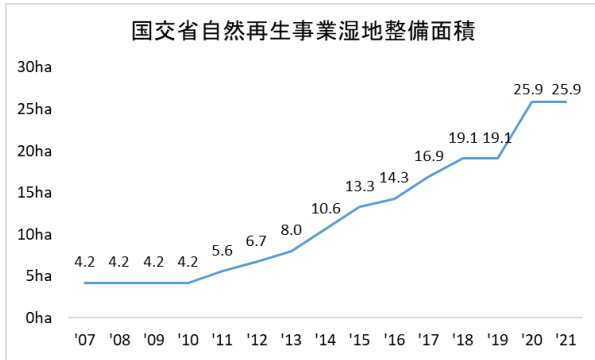
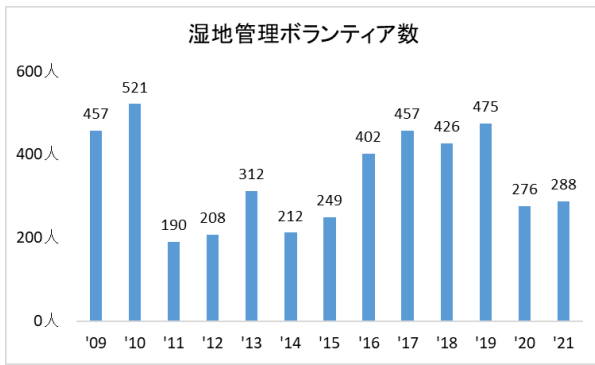


- ・2021年度の野外繁殖地(市外)は、養父市、朝来市、淡路市、福井県越前市、小浜市、京都府京丹後市、綾部市、鳥取県鳥取市、島根県雲南市、徳島県鳴門市、栃木県小山市です。
- ・繁殖ペアが増えてきた一方、巣立ち後の幼鳥が防獣ネットや電気柵に絡まり、救護・死亡する事例が増加しています。

(2) コウノトリが生息できる環境の整備



- ・小グループで身近な自然を再生する「小さな自然再生活動(ビオトープづくり、外来生物の除去など)」を支援しています。
- ・2019年度から、補助上限額が10万円から5万円に変更になりました。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策による活動自粛により申請件数が減少しましたが、2021年は4件増加しました。



- ・戸島、田結、加陽などの湿地では、市内外からのボランティアを受け入れ、湿地づくりや外来種駆除などの保全・管理作業を進めています。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、ボランティアの活動自体が少なく、参加者数も減少しており、2021年度も同数程度となりました。
- ・豊岡河川国道事務所(国土交通省)は、円山川水系河川整備事業の一環として、湿地の整備を行っています。
- ・2020年度に正確な湿地整備面積が算出されたことにより、面積が大きく増加しています。



※国土交通省豊岡河川国道事務所「円山川水系河川整備計画（国管理区間）の概要」

https://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka/maruyamagawa/pdf/38_KASENSEIBI_KEIKAKU_GAIYOU.pdf から抜粋

※現在整備事業中の箇所も含まれます。

豊岡自然再生アクションプランに取り組む地域

「豊岡自然再生アクションプラン」とは、効果的に自然再生に取り組むことで、豊かな自然を取り戻そうという計画です。出石町日野辺区と鳥居区は効果的な自然再生に取り組むための試験的なエリアに選定されています。これらのエリアでは、稲刈り後の水田にわざとトラクターのわだちを残して水をたまりやすくするなど、簡単な工夫で水生生物の生息場所を創り出す取り組みが行われています。



休耕田を利用して作られたビオトープでは、生きものの生息場所として機能しているか確認するため、小さな子どもからご高齢の方が一緒になって生きもの調査を実施されました。調査では、カエルやミズカマキリ、ゲンゴロウの仲間や魚など、たくさんの生きものが確認でき、豊かな水辺環境が戻ってきています。



かつてコウノトリが悠然と空を舞っていたころの豊かな自然が戻るよう、取り組みを続けていきます。

2 2021 年度評価

評価

- 市内でコウノトリが順調に繁殖している。
- 円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、ボランティア等による湿地保全活動が継続されている。
- ▲外来種駆除が難航している。

この調子で
がんばろう

※外来種とは、もともとその地域に生息・生育していないのに、人間の活動により意図的・非意図的に持ち込まれた生きもののことです。中でも、在来の生きものに悪影響を及ぼす外来種を侵略的外来種と呼びます。豊岡市では写真のような外来種が生息・生育しています。



©北垣和也
ブルーギル



©北垣和也
ヌートリア



©北垣和也
カダヤシ



オオフサモ



オオキンケイギク

目標像⑥

様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

【主な取組みの方向】

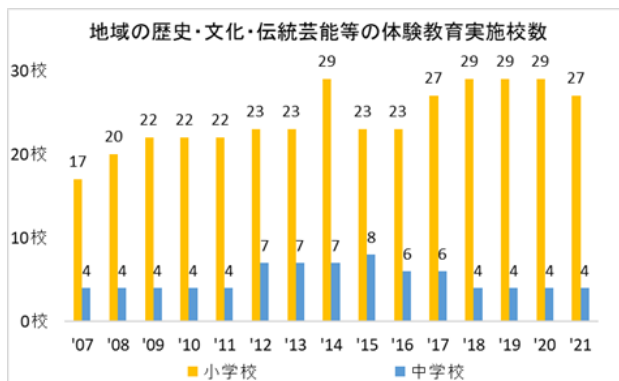
(7) (8) (9)

【具体イメージ】

地域の祭りや伝統行事のことを、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語りかけています／子どもたちが地域の祭りに参加して楽しんでいます／地域の誰もが、地域の文化や歴史に関心を持ち、誇りに感じています

I 主な指標の変化(2007～2021年度)

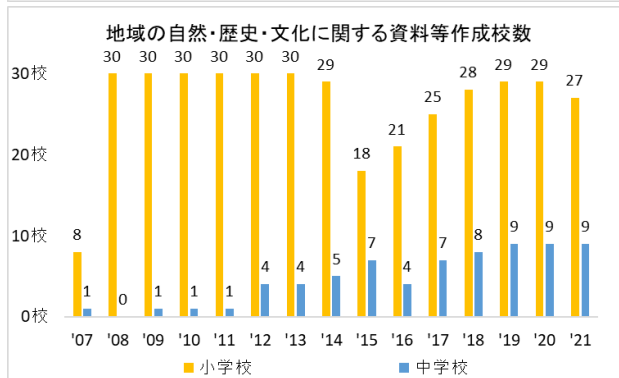
(1) 地域を学ぶ機会



・学校教育の中では、“地域を知る”という視点を意識して地域の「歴史・文化・伝統芸能」の体験教育に取り組んでいます。

※市内の小中学校数は、2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校

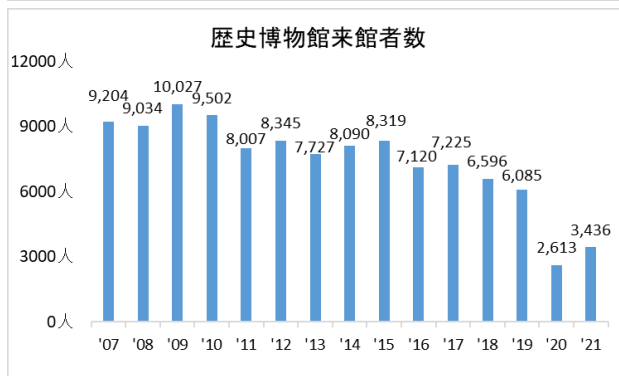
※市内の中学校数は、2014年まで10校、2015年から9校



・2019年4月26日にリニューアルオープンしました(改装工事のため、2月20日～4月25日まで休館)。

・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、来館者数が減少しましたが、2021年度は増加しています。

・2021年度は公開講座の件数及び参加人数が大きく増加しています。



歴史博物館「但馬国府・国分寺館」では、公開講座を実施しています。

年度	2019年度	2020年度	2021年度
公開講座	5件	5件	14件
参加人数	147人	28人	220人

(2) 豊岡市の無形民俗文化財

第3部「豊岡市の環境の状況」(p.49)参照

(3) 地域コミュニティ

地域コミュニティづくりは、若者から高齢者まで、男性も女性も、多様な住民が参画しながら地域の未来を見据えて住民自治を進める取り組みです。地域コミュニティ組織では、自ら「地域づくり」や「課題解決」を行っています。

<地域コミュニティの行事事例>

各区では、地域の歴史・文化等に関する行事や広い世代の交流行事が行われています。

出典：2021年度地域コミュニティ組織活動事例集

【コミュニティ三方「三方ふるさとカルタの完成」】



地区の皆さんに、自分たちの住む地域を知り、関心を持っていただくことを目的に「三方ふるさとカルタ」の作成に取り組みました。

区長さんや文化・教養部の皆さんを中心に、自区の歴史や行事、自慢スポットなど2~3点を選んでいただき、絵札も各区に依頼し描いていただきました。

三方全域に関する絵札については日高西中学校の生徒さんに、化粧箱や絵札の裏を飾る絵は三方小学校の全児童の皆さんに描いてもらいました。

読み札は、「三方村史」「日高辞典」などを参考に、地域の方が作られたものも入れながら、役員会が中心になって作成しました。

【床尾の里てらさか「桐野城址について学ぼう！」】

桐野城は出石川の左岸、桐野区の北東に位置し、西城（標高148m）東城（標高100m）からなり、丹波・丹後方面と出石を結ぶ京街道に接する場所にあります。山名氏の居城である有子山の支城のひとつとして京街道を抑える重要な役割を担っていたと考えられているのが桐野城です。

4月11日、好天に恵まれ、山名氏城址保存会の西尾孝昌氏に引率をお願いして、大人19名、小学生5名の参加で現地をめくり説明をしていただきました。急斜面に苦勞しながらの行程でしたが、頂上からは確かに街道筋が一望でき桐野城の重要性をうかがい知ることができました。



他の地域コミュニティの活動事例については、豊岡市地域コミュニティ HP（右記二次元バーコード）からご覧いただけます。



Topics①

竹野焼板イベント「あつまれ～!ヤキータ!」開催

2021年10月、NPO法人たけのかぞく主催による焼板づくりイベント「あつまれ～!ヤキータ!」が開催されました。「焼板」とは、スギ板の表面を焼いたもので、表面に炭下層ができることで耐久性が高まります。焼板を外壁に使用した家が立ち並ぶ「竹野のまちなみ」を次世代にも伝えたいという想いのもと、竹野の焼板文化を愛する人々を「ヤキータ」と名付けて参加者を募集しました。当日は、焼板のまちなみを散策し、地元の大工さんに焼板のお話を聞いた後、実際に焼板づくりに挑戦しました。地元住民、芸術文化観光専門職大学の学生、地域おこし協力隊、市外の高専の学生など、約60人が集まり、焼板の伝統を体感、共有する機会となりました。今後も、楽しみながら「ヤキータ」文化が継承されていくことを期待します。



(写真 NPO 法人たけのかぞく)

コミュニティ城崎「縁が和プロジェクト」

このプロジェクトは公園の清掃活動で集めた落ち葉を活かし中学生が中心になって腐葉土をつくることから始まります。腐葉土は、①高齢者等へのプレゼント、②街や学校を彩る花のプランターの植えつけ、③地元農家の野菜づくりなどいろいろな団体、グループから個人にまで、少しずつ様々な形で利用されています。

たとえば、①は、豊岡市社会福祉協議会などが一人暮らしの方へ配るもので、2021年はサクラソウの鉢植えを贈りましたが、植え込み時に腐葉土を加え、中学生の手描きメッセージも添えました。腐葉土が使われたことで、清掃活動のみに参加した人も一人暮らしの高齢者と縁がつながりました。③では、この腐葉土で育てた野菜を「縁が和野菜」と名づけ、コミュニティ城崎が主催する『湯ったり朝市』で販売を開始。地域経済の活性化にも貢献しつつあります。その時々無理せずやれることの積み重ねが、多くの人に関わりやすく、次の取り組みを生み出すポイントといえそうです。



(文・写真 コミュニティ城崎)

Topics②

2 2021 年度評価

評価

- 各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。
- 地域の自然・歴史・文化に関する資料を作成し、地域を学ぶことが子どもたちに浸透している。
- 歴史博物館「但馬国府・国分寺館」における公開講座の開催数と参加者数が増加している。
- ▲少子化、高齢化の進行により、伝統行事の継続が難しくなっている。



目標像⑦

子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

【主な取組みの方向】

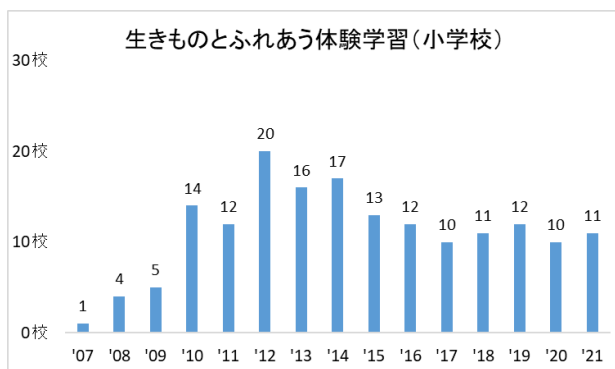
(1) (2) (3) (4) (5)
(8) (9) (10) (14)

【具体イメージ】

地域の環境をよくする取組みが広がり、自然が豊かになっています／自然のことをたくさん学んだ子どもたちがよく外遊びをしています／子どもたちを地域の人が見守っています

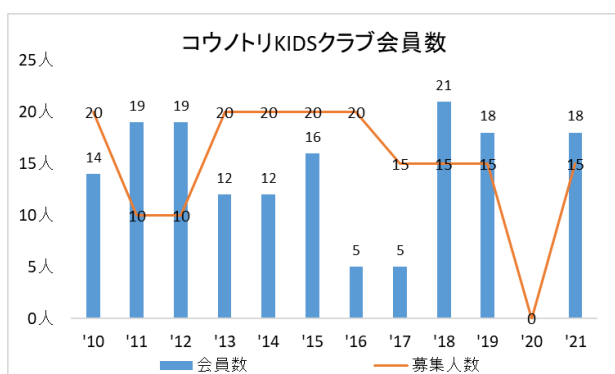
I 主な指標の変化(2007～2021 年度)

(1) 自然を学ぶ機会



・小学校の生きもの調査のなかで、市が指導を担当した数です。独自に実施している学校もあります。

※市内の小学校数は、2012年まで30校、2013年から2020年まで29校、2021年から27校

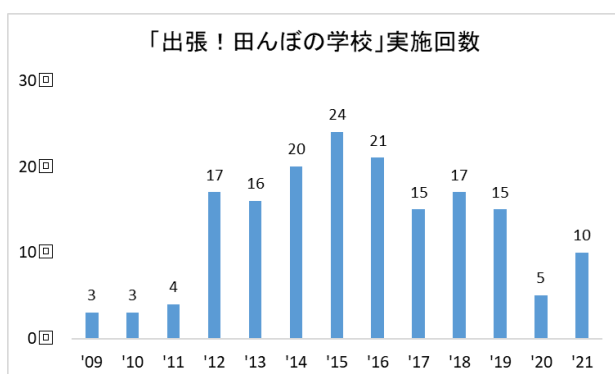


・コウノトリ KIDS クラブは、コウノトリとその生息を支える自然を深く学ぶ、市主催の活動です。

・対象：市内小学4～6年生

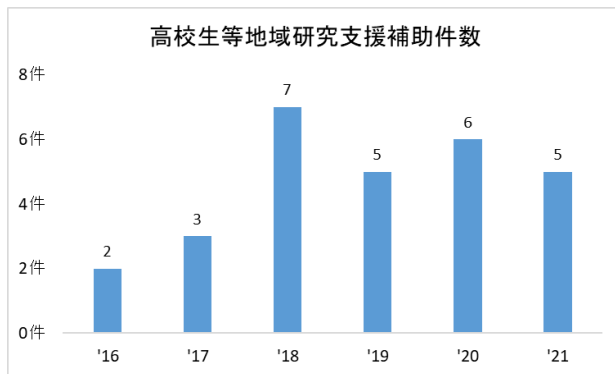
・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、コウノトリ KIDS クラブの募集が取りやめとなりました。

・2021年度から再開し、募集人数を上回る18人が参加しています。



・「出張！田んぼの学校」では、NPO 法人コウノトリ市民研究所のスタッフが、各地域の主催で行われる生きもの調査に講師として出向きます。

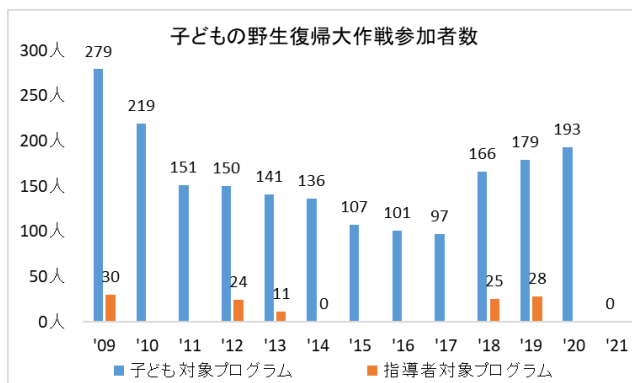
・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、実施する団体数が減少しましたが、2021年度は増加しています。



- ・高等学校、高等専修学校の生徒が行うふるさと豊岡の誇りであるコウノトリ等に関連する研究や調査、活動等を支援しています。
- ・ふるさとの知見を深め、将来に渡って豊岡とつながりを持ち、取組みに参加する若者を増やすことが目的です。

《2021年度の研究》

申請者	研究タイトル	内容
クラーク記念国際高等学校豊岡キャンパス	特別活動「豊岡のコウノトリについて学ぼう」	ハチゴロウの戸島湿地における講話や湿地保全活動を通して、コウノトリにとって住みよい環境をつくるのが、自身の生活にどう影響していくか学んだ。
豊岡総合高等学校インターアクトクラブ	高校生の湿地などでの環境保全・調査観察活動	市内の湿地において、多様な主体と連携し、外来種駆除、希少種保全、里山整備を実施し、ラムサール活動報告会(兵庫県主催)にて発表を行った。
豊岡総合高等学校	持続可能な開発目標の達成を目的とした環境保全活動・実地調査・有識者講話	施設見学や有識者講話などを通して、コウノトリを取り巻く自然環境と環境破壊について学び、多くの生きものと共存する環境づくりを実感した。
出石特別支援学校	「コウノトリはばたけ学習」(コウノトリの観察等)	出石町水上区や袴狭区のコウノトリを観察し、自然を愛する気持ちを育みながら、活動資料を作成し、地域に対して普及啓発を行った。
大岡学園高等専修学校	戸牧川及び周辺河川の生態調査	戸牧川で生きものが生息していくための環境資源を調査研究(河川環境や生きものの生息状況の把握等)し、河川の将来像について考えた。



- ・子ども対象プログラムは、2017年度までは「子どもコース」と「家族コース」の合計、2018年度からは「周年型プログラム」と「単発型プログラム」の合計です。
- ・子ども対象プログラムでは、市内各地域での活動を通じて、豊岡の自然を体験します。
- ・「子どもの野生復帰事業」は「植村直己冒険館機能強化事業」に引き継がれることになり、2020年度の冒険館リニューアルオープンに伴い、事業が終了しました。

(2) 学べる地域環境

環境学習フィールドとしても活用できるよう、ビオトープ水田の設置を進めています。

2021年度は管理（年間通じての湛水等）が困難なビオトープを水田ビオトープ維持管理業務委託契約から外し、新たに八代、弘道、福住の3校区にビオトープが設置されました。

《市内各小学校区のビオトープ水田面積》

(単位: a)

地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積	地域	小学校	面積
豊岡	豊岡	0.0	豊岡	神美	160.2 (-84.4)	日高	府中	74.9	出石	弘道	7.5 (+7.5)
	八条	104.0 (-7.0)		城崎	0.0		八代	10.8 (+10.8)		福住	9.4 (+9.4)
	田鶴野	47.7		竹野	16.8		日高	41.5 (+0.7)		寺坂	42.0 (+10.2)
	三江	62.3 (-8.3)	中竹野	0.0	静修		0.0	小坂		0.0	
	五荘	232.2 (-38.5)	竹野南	0.0	三方		85.0 (+48.6)	小野		69.2 (-5.6)	
	新田	0.0	竹野南	0.0	清滝		19.1	合橋	168.0 (-40.5)		
	中筋	17.2					高橋	0.0			
	港	5.2					資母	22.1			
								但東			

※合計面積の推移は p.15 に掲載。数値下の () は前年度との比較数値

※コウノトリ生息地保全対策事業におけるビオトープ設置分のみ記載

Topics

「第6回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催!

10月30日～31日、「第6回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催しました。繁殖地は豊岡から全国へ広がっている中、人の暮らしとの関係など新たな課題も生まれていることから、今回のかいぎではこれからの野生復帰の未来について語り合いました。「コウノトリの未来」「共生社会を目指して」「私たちの未来」と題したセッションごとに課題提示や意見交換が行われました。

エンディングでは、コウノトリ KIDS+の大井琴華さんが「コウノトリでつながった地域が取り組みを続け、ところを一つにし、人やコウノトリをはじめとする多くの命をつなげて【共に生きる社会】を作っていかなければなりません」と、「兵庫・豊岡宣言（抜粋）」を朗読されました。



2 2021 年度評価

評価

- コウノトリ KIDS クラブに定員以上の応募がある。
- 人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着している。

この調子で
がんばろう

目標像⑧

市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

【主な取組みの方向】

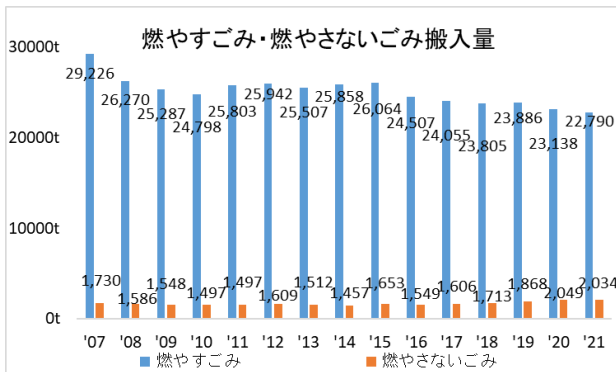
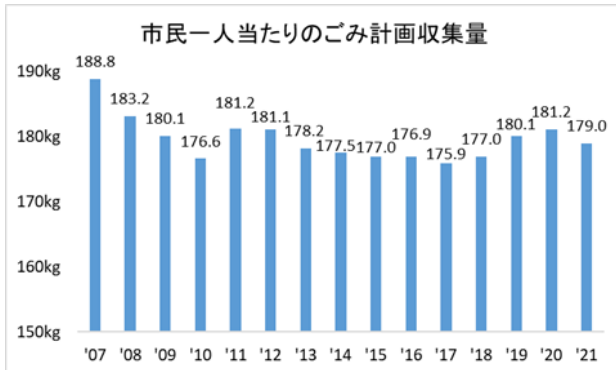
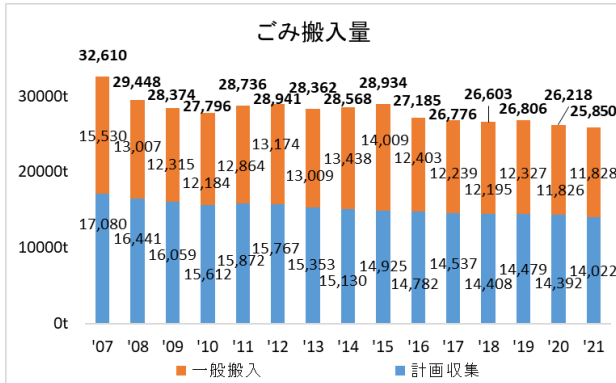
(2) (6) (9) (11) (12)

【具体イメージ】

資源ごみ回収ステーションが増えています／みんなが無駄遣いを減らし、分別を徹底することでごみの量が減少しています／生ごみは堆肥などに、廃食用油は燃料として利用され、資源やエネルギーの地域内循環が進んでいます／事業者は、ゼロエミッションの取組みを進めています

I 主な指標の変化(2007~2021年度)

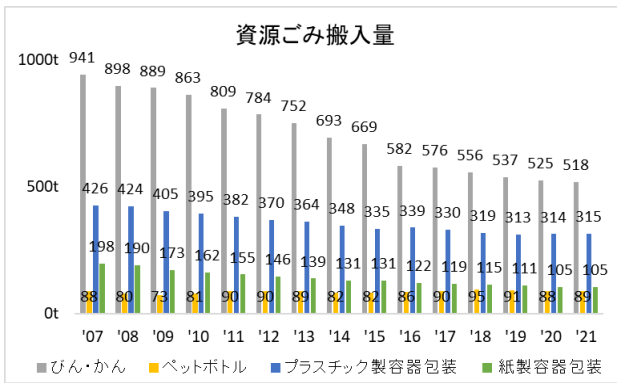
(1) ごみの量



《豊岡市人口(各年度末値)》

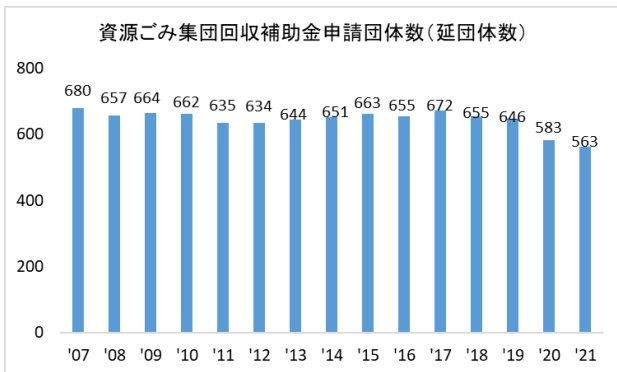
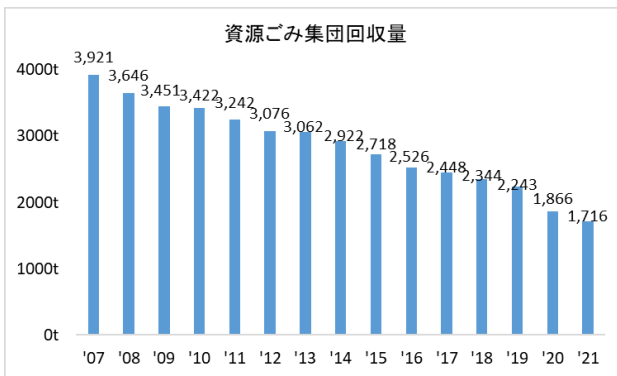
年度	人口	世帯
2007	90,443人	31,808世帯
2008	89,762人	31,936世帯
2009	89,169人	32,185世帯
2010	88,407人	32,313世帯
2011	87,585人	32,380世帯
2012	87,040人	32,586世帯
2013	86,173人	32,651世帯
2014	85,244人	32,788世帯
2015	84,337人	32,869世帯
2016	83,544人	33,043世帯
2017	82,624人	33,173世帯
2018	81,416人	33,145世帯
2019	80,416人	33,274世帯
2020	79,446人	33,421世帯
2021	78,348人	33,546世帯

- ・ごみの分類ごとの搬入量は、計画収集と一般搬入を合わせたものです。
- ・2016年4月から一部のごみの分別区分が下記の通り変わりました。
 - ①燃やすごみで指定袋に入らないものは粗大ごみ
 - ②燃やさないごみは、燃やさないごみ・蛍光灯・乾電池類・粗大ごみの4分類
 - ③1辺20cm以上の缶は燃やさないごみ
 - ④プラスチック製品(プラ製容器包装を除く)は、硬さに関わらず全て燃やすごみ
- ・人口は減少しているものの、世帯数が増加していることから、個別に収集するごみ量は増加する傾向にあります。



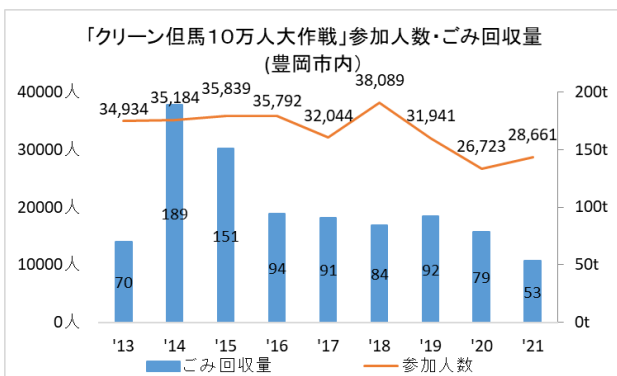
(2) 資源ごみの回収

ほぼ全ての小・中学校で、資源ごみ回収(廃品回収)やリサイクル活動が行われています。

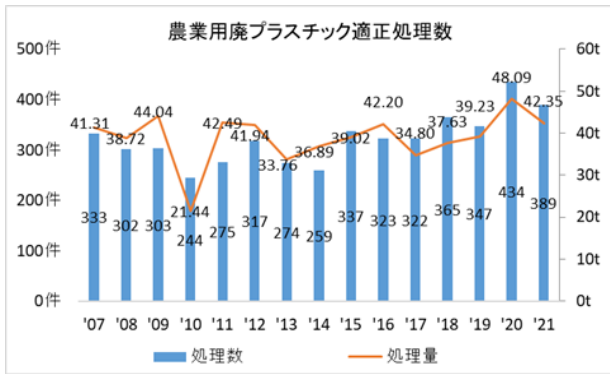


- ・豊岡市の住民で構成される自治会、子供会、老人会、PTA等の営利を目的としない団体を対象に、資源ごみ集団回収事業補助金を交付しています。
- ・スーパーマーケット等の施設でも、資源ごみが回収されています。
- ・2013年度以降、集団回収量は減少し続けています。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、資源ごみ集団回収が中止されたことにより回収量が一段と減少し、2021年度も同水準となっています。
- ・補助金申請団体数=活動数となります。

(3) ごみ回収の取組み



- ・1990年から、毎年6月の第一日曜日を実施基準日として定め、住民が参加する清掃・美化活動「クリーン但馬10万人大作戦」を実施しています。
- ・地域住民がよりいっそうクリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬を美しく住み心地の良い地域とすることを目指します。
- ・ごみ回収量は、「燃やすごみ」「燃やさないごみ」のみで、水路の泥上げ作業で出た「土のう」は除いています。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により参加人数が減少しましたが、2021年度は増加しています。



- ・ビニールハウス等の農業用廃プラスチックは、年に一度持ち寄って集団処理が行われています。
- ・最終処分を担っている業者では、資源化(サーマルリサイクル、マテリアルリサイクル)処分しています。

【サーマルリサイクル】

焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用

【マテリアルリサイクル】

原料として再生利用

「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」を策定しました！

Topics

2022年3月、「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」を策定しました。有識者、事業者、市民、そして市内高校生たちが策定委員となり、1年間かけて内容を議論しました。計画目標を「豊かな環境を次世代まで守り続けます」とし、そのための数値目標として「2030年までに使い捨てプラスチックごみをゼロにする」と掲げています。

「知る」「出さない」「回収する」の3つの視点から、市民、事業者、学生、行政が取り組むアクションをまとめています。「マイバッグ・マイボトルの持参を徹底する」、「使い捨てプラスチック製品を受け取らない」、「清掃活動に参加する」など、誰もが今日からできるプラスチック削減の取り組みがあります。

【みんな一緒にワンモアアクション】をスローガンに、脱プラスチックに取り組ましましょう。



「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」については、市HP（右記二次元バーコード）からご覧いただけます。



2 2021年度評価

評価

○市民一人当たりのごみ計画収集量が減少している。

この調子で
がんばろう

目標像⑨

市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

【主な取組みの方向】

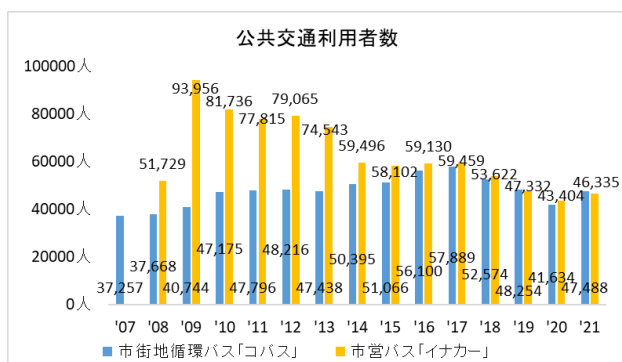
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

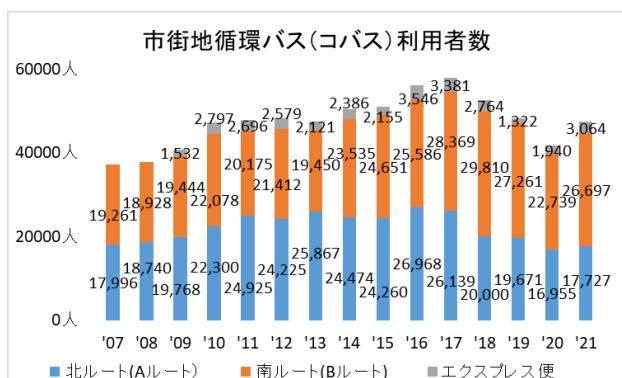
地球温暖化防止の意識が高まり、化石燃料の使用を減らす行動が広がっています／大人も子どもも省エネルギー行動が当たり前になっています／太陽光発電パネルの設置や電気自動車の導入、エコドライブの実践が進んでいます

I 主な指標の変化(2007~2021 年度)

(1) 公共交通の利用



- 公共交通機関を利用することで、各乗用車での化石燃料使用が減り、一人当たりの二酸化炭素(CO₂)排出量も減らすことができます。

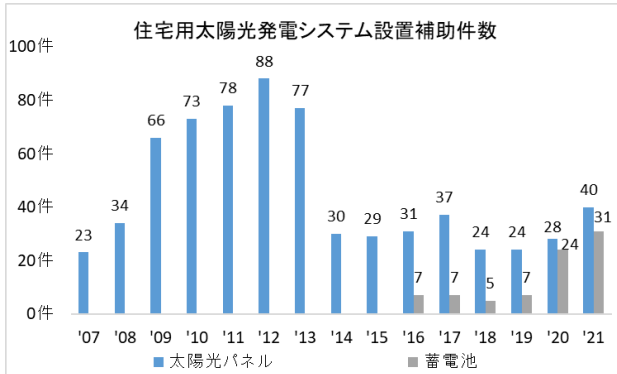


- 2018年度、コバスの走行ルートが、Aルート・Bルートから北ルート・南ルートに変更されました。
- ルート変更に伴い、5カ所のバス停を休止し、3カ所のバス停を新設。各ルートの乗継停留所を豊岡駅とアイティ前に集約しました。
- 2020年度は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛によりコバス利用者が減少したと考えられます。
- ノーマイカーデー参加者数は第4部58ページに記載しています。

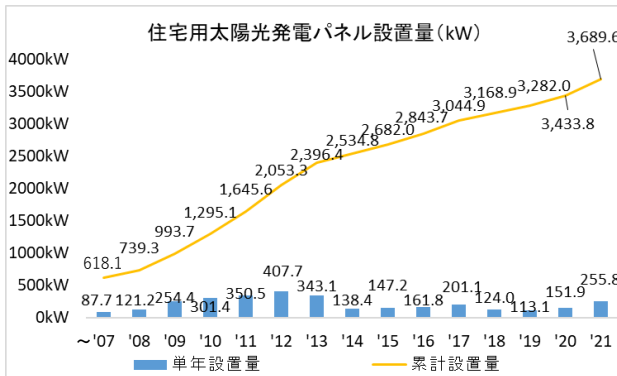
(2) 太陽光発電

太陽光発電は、発電時に化石燃料を使用せず、二酸化炭素(CO₂)も発生しないため、環境への負担が少ない電力です。生物多様性や景観への影響に対して、適切に配慮しながら導入していくことが求められます。

市の施設への太陽光発電システムの設置は1999年度から行っています。各地域の庁舎や小・中学校、コミュニティセンター等に設置されています。



- ・2002年度から住宅用太陽光発電システム設置補助制度が始まりました。
- ・2016年度から、蓄電池も補助対象となりました。
- ・太陽光パネルと一緒に蓄電池をつける場合も後から蓄電池だけをつける場合も対象です。
- ・2021年度から、事業者用太陽光発電システム設置補助制度が始まりました。

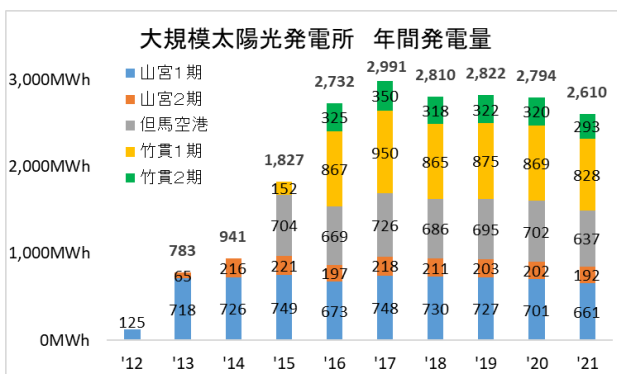


《事業者用太陽光発電システム設置補助》

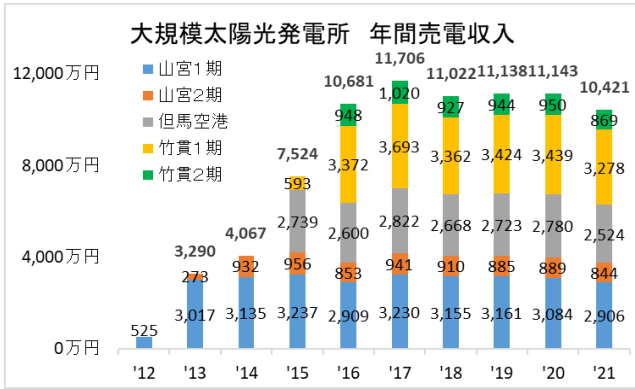
年度	設置事業者数	総設置量
2021	2者	25.1kW

《豊岡市所有大規模太陽光発電所》

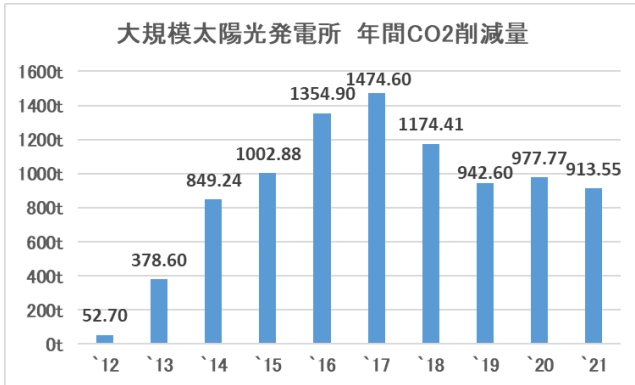
施設名	稼働開始	最大出力
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第1期	2012年度	681.0kW
豊岡エコバレー山宮地場ソーラー第2期	2013年度	318.8kW
コウノトリ但馬空港地場ソーラー	2013年度	677.6kW
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第1期	2015年度	823.2kW
豊岡エコバレー竹貫地場ソーラー第2期	2015年度	299.9kW



- ・各大規模太陽光発電所は、固定価格買取制度（FIT制度）で20年間売電します。固定価格買取制度終了以降の発電については、公共施設等での電力活用を検討しています。



- ・大規模太陽光発電所で発電した電力の売電収入は、設備の維持管理費の他に、太陽光発電システム導入補助、木質バイオマス利用機器設置補助の費用等に充てています。



- ・CO2削減量は、【発電量 (kWh/年) × 調整後排出係数 (環境省が毎年公表)】の計算式で算出しています。
- ・調整後排出係数は関西電力の数値を使用しています。
- ・2021年度の調整後排出係数が2022年7月末時点で未公表のため、2020年度の調整後排出係数を代入して算出しています。

Topics

シーポッド 超小型電気自動車「C+POD」導入!

2021年7月、二酸化炭素の排出抑制とモビリティの電動化を普及促進するため、市職員が利用する公用車として超小型電気自動車(C+POD)を導入しました。C+PODは車両として利用できるのはもちろん、災害時や停電時にはバッテリーに蓄えた電気を非常用電源として利用することもできます。2050年二酸化炭素排出実質ゼロの実現を目指し、公用車としての電気自動車導入をより一層推進していくことが求められます。



2021年度評価

評価

- 住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている。
- 大規模太陽光発電所が順調に発電している。

この調子で
がんばろう

目標像⑩

環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【主な取組みの方向】

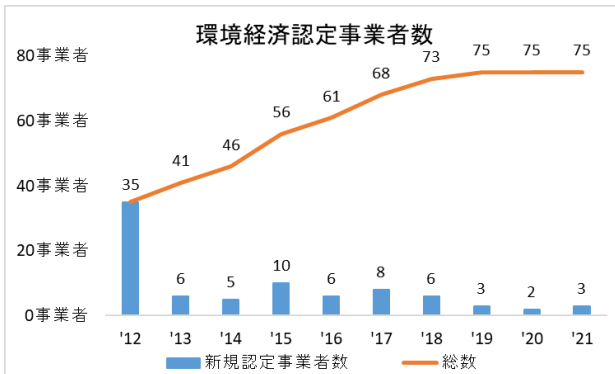
(6) (9) (12)

【具体イメージ】

「環境と経済の共鳴」の環境経済戦略がさらに進み、豊岡の知名度が上がっています／人・もの・情報が広域的に行き交う取組みが進んでいます／新たに受け入れた産業や企業、知や技の交流を通じて、豊岡の町が元気になっています

I 主な指標の変化(2007~2021 年度)

(1) 環境経済認定事業

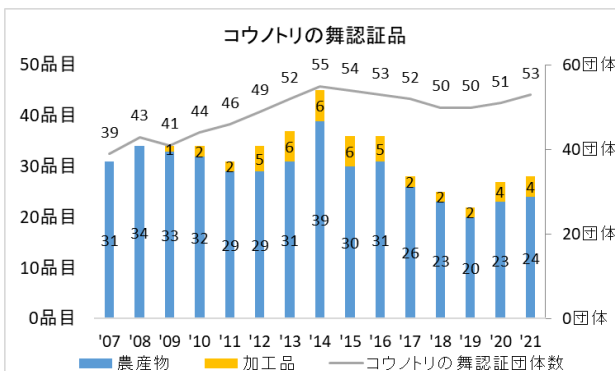


- ・市内の企業で、利益を追求する事業で環境が改善されるものを「環境経済事業認定」しています。
- ・認定事業の実績について、毎年報告が義務付けられており、認定事業が実施されなくなった場合、認定は取り下げられます。

《2021 年度環境経済認定事業者》

事業者名	認定事業名	事業内容
株式会社ビエント	再生可能エネルギー (RPF) の製造	市内で発生する廃棄物 (マテリアルリサイクル困難な古紙や廃プラスチック類) を主原料とした固形燃料を製造・販売する。
Pain de A	コウノトリの舞認定ブランド小麦を使った豊岡小麦パンの開発販売	コウノトリ舞認定ブランド小麦をはじめ、材料の全てを豊岡市産にこだわった「豊岡小麦パン」を製造販売する。
但馬米穀株式会社	ソーラーシェアリング (営農型太陽光発電) 事業「発電と農作物の栽培に太陽光をシェアする」	農地にソーラーパネルを設置し、農業と太陽光発電の両立を図る。発電したエネルギーは農業設備や地域の電力供給としても利用する。

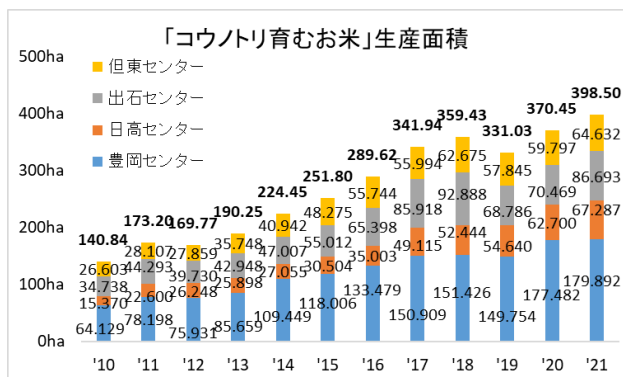
(2) コウノトリの舞



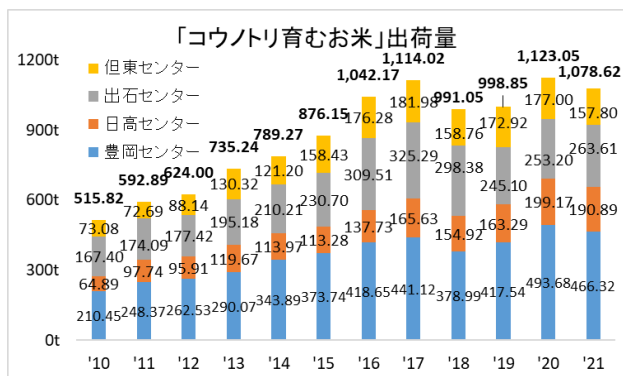
- ・2021 年度の登録品目 (28 品目)

米 (うるち、酒、もち)、レタス、コマツナ、ハウレンソウ、小麦、ソバ、トマト、バレイショ、シュンギク、だいこん、キャベツ、黒大豆枝豆、大豆、ショウガ、ブルーベリー、ぶどう、ニンジン、オクラ、タマネギ、トウモロコシ、ネギ (青ねぎ、葉ねぎ)、チンゲンサイ、ピーマン、水菜、生姜シロップ、生姜しぼり汁、ブルーベリーソース、ブルーベリージャム

(3) コウノトリ育むお米



・JA たじま営農生活センターごとのデータです。

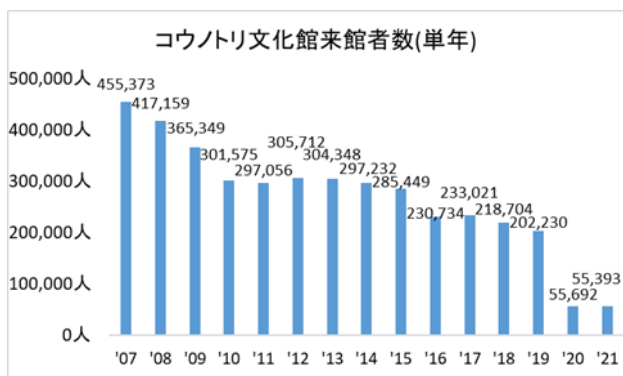


・コウノトリ育むお米は海外でも販売されています。

《コウノトリ育むお米の海外への輸出状況》

年度	輸出国・地域(国・地域数)	輸出货量
2016	アメリカ、シンガポール (2)	1.50t
2017	アメリカ、シンガポール、香港 (3)	7.80t
2018	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国 (5)	17.16t
2019	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、台湾 (6)	17.27t
2020	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、台湾、スイス、フランス (8)	22.23t
2021	アメリカ、シンガポール、香港、オーストラリア、ドバイ首長国、スイス、フランス、オランダ (8)	18.60t

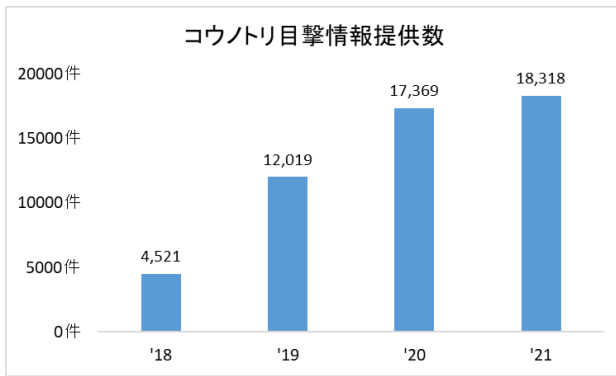
(4) 人・もの・情報の交流



・近年、ツアー等の団体客が減少していますが個人旅行者は定着しています。

- ・2006年 100万人達成
- ・2008年 200万人達成
- ・2011年 300万人達成
- ・2014年 400万人達成
- ・2018年 500万人達成

・2020年度及び2021年度は、緊急事態宣言中の閉館により、来館者数が減少しました。



- ・市民参加によるコウノトリのモニタリング
「コウノトリ市民科学」には、全国からコウノトリの目撃情報が提供されています。
 - ・コウノトリの野外個体数増加に併せて、目撃情報提供数も増加しています。
- 【出典：コウノトリ市民科学まとめ(2022.3月発行)】

<宿泊を伴う市外からのボランティア活動による交流・地域活性>

市外の企業や団体、学校が環境保全活動ボランティアの際に、宿泊や観光も行うことで、地域の活性化につながります。ボランティアでは、湿地の乾燥化を防ぐために池を作ったり水路を広げる保全作業や外来種駆除等を行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症対策により、ボランティア数が1件に留まりましたが、2021年度は3件に増加しました。

《宿泊を伴う市外からのボランティア件数》

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
件数	3件	3件	3件	3件	5件	6件	4件	5件	1件	3件

「世界の持続可能な観光地トップ100選2021」に豊岡が選出されました!

世界の持続可能な観光地を認証する国際団体「グリーン・デスティネーションズ」の表彰制度『世界の持続可能な観光地トップ100選2021』に豊岡市が選出されました。観光マネジメント戦略である「大交流ビジョンの策定やその戦略方針」や、各種行動計画策定時の「市民の計画への参画」等が高く評価されました。さらに、地域の優れた取組み事例として、人とコウノトリの共生を目指したまちづくりにおける環境保全・地域社会・地域経済が好循環し、他地域へも広がっていることが高く評価されました。

選出されたことにより、持続可能な観光地として国際的に認知され、SDGsや持続可能な観光に関心の高い観光客の増加につながることが期待されます。今後も、持続可能な観光地「豊岡」であり続けられるよう、地域の皆さんと共に考え、取り組んでいきます。



Topics

2 2021年度評価

評価

- 環境経済認定事業が浸透している。
- コウノトリ育むお米の海外輸出が順調に進んでいる。

この調子で
がんばろう

第3部 豊岡市の環境の状況

■環境の状況について

豊岡市の環境に関するさまざまなデータとその経年変化を整理しています。

Ⅰ 自然

(1) 気象の状況

年次	気温(℃)			湿度(%)	降水量(mm)	最深積雪(cm)	霧日数(日)※	猛暑日(日)
	平均	最高極	最低極					
2000年	14.5	39.3	-3.7	79	1,955	48	88	23
2001年	14.3	36.8	-6.0	78	2,451	52	83	16
2002年	14.6	37.9	-3.3	76	2,047	46	77	22
2003年	14.3	36.2	-5.5	77	1,829	28	71	7
2004年	15.4	37.2	-4.7	76	2,510	46	60	13
2005年	14.5	37.2	-5.9	78	2,114	45	59	10
2006年	14.5	36.8	-6.3	78	2,083	79	78	13
2007年	15.0	38.6	-4.2	76	1,850	18	未測定	14
2008年	14.6	38.4	-2.3	77	2,020	32	84	18
2009年	14.6	36.3	-5.2	77	2,136	43	94	3
2010年	15.2	38.0	-3.7	76	1,993	21	62	38
2011年	14.5	37.7	-5.9	78	2,424	75	60	22
2012年	14.3	37.7	-5.8	79	2,252	100	67	32
2013年	14.9	37.9	-4.4	77	1,997	33	58	25
2014年	14.4	38.7	-3.4	80	2,002	30	71	8
2015年	14.9	37.6	-2.8	81	2,018	42	61	11
2016年	15.4	38.2	-6.9	81	2,073	20	64	10
2017年	14.4	37.9	-3.8	80	2,525	80	81	15
2018年	15.2	39.1	-6.0	80	2,318	48	55	31
2019年	15.4	37.9	-2.1	80	1,621	11	71	21
2020年	15.4	38.6	-4.2	81	2,135	19	65	21
2021年	15.2	37.4	-4.5	81	2,122	37	70	12

※「霧日数」は、2007年9月以前(目視)と2007年10月以降(視程計)で、観測方法が異なる。資料：気象庁

(2) 大気の状態

ア 県一般環境大気測定局における測定結果：年平均値(市役所測定局)

年次	一酸化窒素(ppm)	二酸化窒素(ppm)	二酸化硫黄(ppm)	浮遊粒子物質(mg/m3)
2003年	0.003	0.009	0.003	0.019
2004年	0.004	0.009	0.002	0.019
2005年	0.005	0.012	0.002	0.020
2006年	0.004	0.008	0.002	0.019
2007年	0.004	0.007	0.002	0.017
2008年	0.001	0.007	0.002	0.018
2009年	0.003	0.007	0.002	0.015
2010年	0.002	0.006	0.001	0.022
2011年	0.003	0.007	0.001	0.018
2012年	0.001	0.007	0.001	0.020
2013年	0.001	0.006	0.001	0.022
2014年	0.001	0.005	0.001	0.019
2015年	0.001	0.004	0.001	0.019

年次	一酸化窒素 (ppm)	二酸化窒素 (ppm)	二酸化硫黄 (ppm)	浮遊粒子物質(mg/m ³)
2016年	0.001	0.004	0.001	0.018
2017年	0.000	0.004	0.001	0.016
2018年	0.000	0.001	0.001	0.018
2019年	0.000	0.002	0.001	0.015
2020年	0.001	0.003	0.001	0.015

資料：ひょうごの大気環境

イ 県自動車排出ガス測定局における測定結果：年平均値（国道312号小尾崎測定局）

年次	一酸化窒素(ppm)	二酸化窒素(ppm)	一酸化炭素(ppm)
2003年	0.010	0.017	0.6
2004年	0.008	0.016	0.5
2005年	0.007	0.015	0.5
2006年	0.006	0.013	0.5
2007年	0.006	0.012	0.4
2008年	0.005	0.011	0.4
2009年	0.004	0.009	0.4
2010年	0.003	0.008	(0.3)
2011年	0.005	0.009	0.3
2012年	0.004	0.008	0.3
2013年	0.003	0.005	0.3
2014年	0.003	0.007	0.3
2015年	0.003	0.006	0.2
2016年	0.003	0.006	0.3
2017年	0.002	0.005	0.4
2018年	0.002	0.005	0.5
2019年	0.002	0.004	0.3
2020年	0.002	0.004	0.3

※（ ）は、有効測定時間数（6000時間/年）に達していない値を示す。 資料：ひょうごの大気環境

(3) 河川の水質〔BOD（生物化学的酸素要求量）75%値〕の推移 (単位：mg/l)

年次	河川・観測地点(環境基準)		
	円山川上流上ノ郷(2.0mg/l)	円山川下流立野大橋 (3.0mg/l)	竹野川竹野新橋 (2.0mg/l)
2006年	0.6	0.6	0.0
2007年	0.6	0.5	0.5
2008年	0.6	0.5	0.5
2009年	0.5	0.5	0.0
2010年	0.6	0.6	0.6
2011年	0.6	0.8	0.0
2012年	0.8	0.8	0.4
2013年	0.6	0.8	0.0
2014年	0.7	1.1	0.5
2015年	0.6	1.2	0.7
2016年	0.5	0.9	0.5

年次	河川・観測地点(環境基準)		
	円山川上流上ノ郷(2.0mg/l)	円山川下流立野大橋(3.0mg/l)	竹野川竹野新橋(2.0mg/l)
2017年	0.7	0.8	0.5
2018年	0.6	0.7	0.5
2019年	0.5	0.7	0.5
2020年	0.5	0.5	0.7

資料：兵庫県環境白書

2 コウノトリ

(1) コウノトリの野生復帰の歩み

年次	コウノトリの野生復帰の歩み
1955年	・コウノトリ保護協賛会が発足し、官民一体となった保護運動を展開
1956年	・コウノトリは20羽に減少。コウノトリが国特別天然記念物の指定を受ける
1962年	・兵庫県が、国の特別天然記念物コウノトリの管理団体として指定を受ける
1963年	・コウノトリは11羽に減少 ・巣から卵を取り、人工孵化を試みるが成功せず、野生個体を捕獲し、人工飼育に踏み切ることを決定
1964年	・コウノトリ飼育場(現保護増殖センター)の建設に着手
1965年	・野上地区にコウノトリ飼育場が完成 ・一つがいを保護し、人工飼育スタート
1971年	・野生最後の1羽が豊岡市内で保護されたが死亡。これにより日本国内の野生コウノトリが消滅
1985年	・ロシア(ハバロフスク地方)から野生の幼鳥6羽を受贈
1986年	・豊岡盆地に生息し、飼育場で人工飼育されていた最後のコウノトリが死亡
1989年	・人工飼育で初の繁殖に成功。以後、毎年繁殖に成功
1992年	・野生復帰構想スタート
1994年	・飼育下第3世代が誕生 ・「第1回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催
1997年	・県立コウノトリの郷公園の整備に着工
1998年	・増殖事業は軌道に乗り、飼育下のコウノトリは50羽を超える
1999年	・県立コウノトリの郷公園が開園
2000年	・市立コウノトリ文化館が開館 ・「第2回コウノトリ未来・国際かいぎ」開催
2001年	・飼育コウノトリが80羽を超える
2002年	・飼育コウノトリが100羽を超える ・野生のコウノトリ(ハチゴロウ)が飛来し定着する
2003年	・県が「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定 ・コウノトリ野生復帰推進連絡協議会が設置される ・市が安全・安心な農産物ブランド「コウノトリの舞」を商標登録 ・「コウノトリと共生する水田づくり」を始める
2004年	・「コウノトリファンクラブ」が発足する
2005年	・9月24日コウノトリ5羽を自然放鳥 ・「第3回コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催

年次	コウノトリの野生復帰の歩み
2006年	<ul style="list-style-type: none"> ・野生のコウノトリ(エヒメ)が飛来し定着する ・放鳥拠点(祥雲寺)から2羽が巣立ち(段階的放鳥) ・飼育コウノトリ3羽を自然放鳥、放鳥拠点(河谷)のコウノトリ4羽を段階放鳥
2007年	<ul style="list-style-type: none"> ・5月20日国内の野外で43年ぶりにひな1羽が誕生し、7月31日46年ぶりに巣立つ ・飼育コウノトリ3羽を自然放鳥(楽々浦)、放鳥拠点(山本)の2羽を放鳥
2008年	<ul style="list-style-type: none"> ・5月20日を「生きもの共生の日」と定める ・野外で8羽のひなが巣立つ ・放鳥拠点(三木)から2羽が巣立ち(段階的放鳥)
2009年	<ul style="list-style-type: none"> ・市立ハチゴロウの戸島湿地オープン ・野外で9羽のひなが巣立つ ・放鳥拠点(唐川)の2羽を放鳥
2010年	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催 ・野外で9羽のひなが巣立つ
2011年	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県教育委員会とコウノトリの郷公園が「コウノトリ野生復帰ランドデザイン」を発表 ・福井県越前市に1ペア(2羽)を移送 ・野外で9羽のひなが巣立つ
2012年	<ul style="list-style-type: none"> ・7月3日「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録 ・放鳥コウノトリに3世誕生 ・野外で14羽のひなが巣立つ
2013年	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市立三江小学校の人工巣塔から、初の巣立ち ・野外で22羽のひなが巣立つ
2014年	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡生まれのコウノトリが初めて国境を越え、韓国金海市に飛来 ・第5回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催(コウノトリ野生復帰の取り組みの特長や課題をまとめた報告書を発表) ・野外で16羽のひなが巣立つ
2015年	<ul style="list-style-type: none"> ・7月23日千葉県野田市で3羽のコウノトリを放鳥(兵庫県外で初の放鳥) ・9月3日韓国忠清南道禮山郡で、韓国初となる放鳥(8羽を放鳥) ・10月3日福井県越前市白山区で2羽のコウノトリを放鳥 ・野外で13羽のひなが巣立つ
2016年	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国で放鳥されたコウノトリからひなが誕生し、巣立つ ・野外で12羽のひなが巣立つ
2017年	<ul style="list-style-type: none"> ・国内野外で生息するコウノトリが100羽を突破 ・徳島県鳴門市で、豊岡盆地周辺以外で初のひな誕生 ・野外で25羽のひなが巣立つ
2018年	<ul style="list-style-type: none"> ・野外で24羽のひなが巣立つ
2019年	<ul style="list-style-type: none"> ・野外で46羽のひなが巣立つ
2020年	<ul style="list-style-type: none"> ・国内野外で生息するコウノトリが200羽を突破 ・野外で56羽のひなが巣立つ
2021年	<ul style="list-style-type: none"> ・野外で51羽のひなが巣立つ ・第6回「コウノトリ未来・国際かいぎ」を開催

(2) コウノトリの羽数 (2022年5月1日現在)

区 分	生息数
兵庫県立コウノトリの郷公園の飼育個体	92羽
野外で生息する個体 (ひなを除く)	249羽
飛来した野生個体	－羽
合 計	341羽

資料：県立コウノトリの郷公園

3 人口、世帯数、就業者数の推移

(1) 世帯および人口の推移 (各年10月1日現在)

年次	面積 (k m ²)	世帯数 (戸)	人口 (人)			1世帯当り の人員	年齢別人口 (人)		
			総数	男	女		14歳以 下	15~64 歳	65歳以 上
◎1995年	697.66	28,131	93,859	44,974	48,885	3.34	16,072	58,557	19,230
◎2000年	697.66	29,181	92,752	44,637	48,115	3.18	14,508	56,489	21,755
◎2005年	697.66	29,617	89,208	42,695	46,513	3.01	12,966	53,177	23,059
◎2010年	697.66	29,741	85,592	40,791	44,801	2.88	11,893	49,523	24,144
2011年	697.66	29,874	85,012	40,571	44,441	2.85	-	-	-
2012年	697.66	29,818	84,389	40,353	44,036	2.83	-	-	-
2013年	697.66	29,882	83,749	40,088	43,661	2.80	-	-	-
2014年	697.66	30,017	83,011	39,779	43,232	2.77	-	-	-
◎2015年	697.55	30,189	82,250	39,494	42,756	2.72	10,620	45,281	25,983
2016年	697.55	30,278	81,391	39,071	42,320	2.69	-	-	-
2017年	697.55	30,456	80,595	38,682	41,913	2.65	-	-	-
2018年	697.55	30,450	79,428	38,175	41,253	2.61	-	-	-
2019年	697.55	30,586	78,299	37,726	40,573	2.56	-	-	-
◎2020年	697.55	30,180	77,489	37,303	40,186	2.57	9,482	41,006	26,522
2021年	697.55	30,416	76,605	36,840	39,765	2.52	-	-	-

※本表は5年毎の国勢調査結果および兵庫県推計人口結果

◎は国勢調査結果 (2015年は速報値)

(2) 産業別就業者数

(単位：人)

年次	第1次	第2次	第3次	分類不能	計
1990年	5,453	17,921	26,217	48	49,639
1995年	4,823	17,129	27,834	20	49,806
2000年	3,581	15,485	28,179	143	47,388
2005年	3,544	13,485	28,088	73	45,190
2010年	2,873	11,196	26,743	864	41,676
2015年	2,472	10,981	26,511	745	40,709
2020年	2,273	10,841	27,099	-	40,213

資料：国勢調査

4 森林面積

(1) 樹種別森林面積

(単位：ha)

年次	針葉樹	広葉樹	その他	計
2007年	26,025	27,400	1,115	54,540
2008年	26,070	27,351	1,116	54,537
2009年	26,076	27,345	1,116	54,536
2010年	26,076	27,345	1,116	54,536
2011年	26,077	27,336	1,117	54,530
2012年	26,077	27,336	1,117	54,530
2013年	26,062	27,306	1,142	54,510
2014年	26,092	27,297	1,148	54,537
2015年	26,091	27,297	1,149	54,537
2016年	26,092	27,285	1,160	54,537
2017年	26,097	27,279	1,142	54,518
年次	針葉樹	広葉樹	その他	計
2018年	26,104	27,272	1,142	54,518
2019年	26,112	27,262	1,140	54,514
2020年	26,112	27,262	1,140	54,514

※端数処理の関係で合計数値が合わない

資料：兵庫県森林GISシステム

(2) 所有者別森林面積 (2021年3月31日現在)

区分	針葉樹	広葉樹	その他	総数
公有林	1,690	1,544	61	3,295
私有林	24,422	25,718	1,079	51,219
共有林	0	0	0	0
総数	26,112	27,262	1,140	54,514

※端数処理の関係で合計数値が合わない

(3) 林業就業者数

2005年	2010年	2015年	2020年
26人	101人	68人	89人

資料：国勢調査（2010年から集計方法変更。農家林家を含む）

(4) 市内の除間伐の面積

年度	面積 (ha)	年度	面積 (ha)
2010年	723	2016年	300
2011年	890	2017年	268
2012年	515	2018年	306
2013年	519	2019年	316
2014年	498	2020年	293
2015年	401	2021年	173

※市、公社、民間等の分収造林すべてを含む

資料：豊岡コウノトリ森林組合

5 農業

(1) 農家数の推移

(単位：戸)

年次	専業	1種兼業	2種兼業	自給的農家	計
1985年	585	855	6,930		8,370
1990年	647	562	6,251		7,460
1995年	617	648	5,496		6,761
2000年	468	361	3,703	1,732	6,264
2005年	546	296	2,936	2,021	5,799
2010年	570	304	2,270	2,088	5,232
2015年	472	303	1,768	1,912	4,455
芽変更・	販売			自給的農家	計
2020年	1,971			1,722	3,693

※2000年から自給的農家の専業別調査の簡素化

資料：農林業センサス

※2020年から専業別の把握を廃止

(2) 経営耕地のある農家数と経営耕地面積

(単位 農家数：戸、面積：ha)

区分	総数		耕作田		耕作畑		樹園地		休耕地	
	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
2005年	-	3,880	3,713	3,521	2,678	319	251	42	1,280	218
2010年	3,181	3,651	3,098	3,336	2,227	285	212	30	1,054	208
2015年	2,593	3,468	2,518	3,188	1,605	253	151	26	595	118
2020年	2,036	3,255	1,987	2,956	1,210	277	138	22		

※2020年から集計方法変更。経営耕地のある経営体の数と経営耕地面積を把握

資料：農林業センサス

6 漁業

(1) 漁家数、漁獲量、漁獲高の推移

年次	漁家数(戸)			漁獲量(ト)			漁獲高(万円)		
	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜	計	津居山港	竹野浜
2006年	221	124	97	2,941	2,324	617	191,088	177,582	13,506
2007年	210	119	91	2,706	2,285	421	190,926	173,778	17,148
2008年	206	115	91	2,771	2,356	415	192,380	175,209	17,171
2009年	205	114	91	2,248	1,731	517	168,056	153,399	14,657
2010年	198	112	86	2,286	1,939	347	160,490	147,231	13,259
2011年	183	108	75	2,310	2,117	193	162,615	152,825	9,790
2012年	179	108	71	2,375	2,177	198	164,312	154,493	9,819
2013年	167	105	62	2,506	1,987	519	163,244	153,028	10,216
2014年	160	101	59	2,425	2,158	267	171,377	159,616	11,761
2015年	154	97	57	2,484	2,101	383	189,073	178,505	10,568
2016年	145	89	56	2,534	2,295	239	183,870	173,344	10,526
2017年	137	81	56	2,193	1,963	230	177,465	167,947	9,518
2018年	134	79	55	1,750	1,529	221	183,772	172,648	11,124
2019年	133	78	55	2,078	1,818	260	181,859	170,254	11,605
2020年	132	76	56	1,863	1,697	166	172,348	164,207	8,141
2021年	144	90	54	1,760	1,460	300	177,697	168,752	8,945

資料：但馬漁協 津居山支所、竹野支所

7 ごみ

(1) ごみ収集量 (単位：ト) [参考] 1人あたりの収集量 (単位：人/kg)

年度	計	計画収集	一般搬入	人口	1人あたり
2007年	32,610	17,080	15,530	90,443	360.6
2008年	29,448	16,441	13,007	89,762	328.1
2009年	28,374	16,059	12,315	89,169	318.2
2010年	27,796	15,612	12,184	88,407	314.4
2011年	28,736	15,872	12,864	87,585	328.1
2012年	28,941	15,767	13,174	87,040	332.5
2013年	28,362	15,353	13,009	86,173	329.1
2014年	28,568	15,130	13,438	85,244	335.1
2015年	28,934	14,925	14,009	84,337	343.1
2016年	27,185	14,782	12,403	83,544	325.4
2017年	26,776	14,537	12,239	82,624	324.1
2018年	26,603	14,408	12,195	81,416	326.7
2019年	26,806	14,479	12,327	80,416	333.3
2020年	26,219	14,392	11,826	79,446	330.0
2021年	25,850	14,022	11,828	78,348	329.9

※清掃土砂、災害ごみを除く ※人口は各年度3月末の数字

資料：生活環境課

(2) ごみ種別搬入量

(単位：t)

年度	燃やすごみ	燃やさないごみ	びんかん	ペットボトル	プラスチック製容器包装	紙製容器包装	計	水路土砂
2007年	29,226	1,730	941	88	426	198	32,610	425
2008年	26,270	1,586	898	80	424	190	29,448	369
2009年	25,287	1,548	889	73	405	173	28,374	388
2010年	24,798	1,497	863	81	395	162	27,796	412
2011年	25,803	1,497	809	90	382	155	28,736	37
2012年	25,942	1,609	784	90	370	146	28,941	0
2013年	25,507	1,512	752	89	364	139	28,363	0
2014年	25,858	1,457	693	82	348	131	28,569	0
2015年	26,064	1,653	669	82	335	131	28,934	0
2016年	24,507	1,549	582	86	339	122	27,185	0
2017年	24,055	1,606	576	90	330	119	26,776	0
2018年	23,805	1,713	556	95	319	115	26,603	0
2019年	23,886	1,868	537	91	313	111	26,806	0
2020年	23,138	2,049	525	88	314	105	26,219	0
2021年	22,790	2,034	518	89	315	105	25,850	0

資料：生活環境課

(3) 資源ごみ集団回収量

(単位：t)

年度	団体数	紙類	布類	スチール缶	ビン類	アルミ缶	牛乳パック	計
2007年	680	3,747	90	1	30	43	10	3,921
2008年	657	3,477	88	1	27	43	10	3,646
2009年	667	3,323	86	1	25	49	9	3,493
2010年	662	3,261	80	2	20	50	9	3,422
2011年	635	3,078	79	2	17	51	9	3,236
2012年	634	2,916	86	2	16	47	9	3,076
2013年	644	2,913	81	2	14	43	9	3,062
2014年	651	2,777	79	1	13	44	9	2,923
2015年	663	2,575	80	1	12	42	8	2,718
2016年	655	2,384	81	1	10	42	8	2,526
2017年	672	2,312	75	1	9	44	7	2,448
2018年	655	2,215	74	0.9	7	40	7	2,344
2019年	646	2,107	81	1	5	38	5	2,243
2020年	583	1,781	37	0.6	4	35	5	1,866
2021年	563	1,642	32	0.6	4	32	4	1,716
補助金単価(※1)		6円	5円	5円	5円	5円	5円	
補助金単価(※2)		7円	7円	2円	2円	2円	7円	

※1 1kg当たりの単価。ビン類(1升ビン、ビール瓶が対象)は2本を1kgに換算。

資料：生活環境課

※2 2012年度から補助金単価を変更。

8 指定文化財

(2022年3月31日現在)

種別等		国	県	市	計	
有形文化財	建造物	建造物	6	6	43	55
	美術工芸品	絵画	1	6	21	28
		彫刻	4	13	31	48
		工芸品	1	1	18	20
		書跡・典籍	-	1	33	34
		古文書	-	-	8	8
		考古資料	-	6	15	21
	歴史資料	-	1	3	4	
無形文化財	無形文化財保持者	-	-	1	1	
民俗文化財	有形民俗	-	1	7	8	
	無形民俗	-	2	9	11	
史跡名勝 天然記念物	史跡	2	6	30	38	
	名勝	1	3	8	12	
	天然記念物	2	11	20	33	
	〃(地域を定めず)	7	-	-	7	
	特別天然記念物	-	-	-	-	
	〃(地域を定めず)	2	-	-	2	
伝統的建造物群	伝統的建造物群保存地区	1	-	-	1	
登録有形文化財	建造物	21	1	-	22	
合 計		48	58	247	353	

資料：文化・スポーツ振興課

9 エネルギー

(1) 電灯・電力消費量

(単位：千 kWh)

年度	総量	電灯	電力	その他
2010年	296,084	254,286	41,798	非公表
2011年	287,049	247,345	39,704	非公表
2012年	278,367	240,801	37,566	非公表
2013年	274,968	236,386	35,923	非公表
2014年	262,558	226,692	33,736	非公表
2015年	253,508	218,858	32,725	1,925
2016年～	非公表	非公表	非公表	非公表

※電灯とは、定額電灯、従量電灯、公衆街路灯、時間帯別電灯

資料：関西電力株式会社

※電力とは、深夜電力、低圧電力、事業用電力

※その他とは、建設工事用、臨時電灯・電力、農事用電力、融雪用電力

※特定規模需要（自由化対象需要）の実績は含まない。

※2016年度から、一般家庭の電力も自由化対象となり非公表

(2) ガスの業種別需要状況

(単位：千 m^3)

年度	総数	家庭用	業務用			
			計	商業用	工業用	その他
2010年	7,363	2,804	4,559	2,059	36	2,464
2011年	7,217	2,739	4,479	2,020	28	2,431
2012年	7,184	2,672	4,512	2,109	25	2,378
2013年	7,538	2,558	4,980	2,604	19	2,357
2014年	7,620	2,546	5,074	2,709	17	2,348
2015年	7,375	2,412	4,962	2,701	19	2,243
2016年	7,589	2,394	5,195	2,779	16	2,400
2017年	7,668	2,462	5,205	2,786	15	2,404
2018年	7,435	2,289	5,145	2,813	16	2,316
2019年	7,327	2,243	5,084	2,812	15	2,256
2020年	7,013	2,374	4,639	2,295	15	2,330
2021年	7,088	2,362	4,726	2,288	14	2,424

※供給ガスの熱量は 45MJ/ m^3 (10,750Kcal/ m^3)

資料：豊岡エネルギー株式会社

(3) 太陽光発電システム設置状況

(単位 出力：kW、削減量：t)

設置年度	住宅		公共施設・事業所	
	出力	CO ₂ 削減量	出力	CO ₂ 削減量
～2007年	627.2	189.9	96.7	29.7
2008年	121.2	37.2	18.0	4.7
2009年	254.4	65.9	8.4	2.2
2010年	301.4	78.0	395.3	108.5
2011年	350.5	96.2	29.0	11.8
2012年	407.6	164.9	14.5	6.7
2013年	343.1	159.2	1,703.5	858.8
2014年	138.4	69.8	5.5	2.8
2015年	147.2	75.2	1,123.1	544.2
2016年	161.8	78.4	24.6	11.8
2017年	201.1	96.9	0.0	0.0
2018年	124.0	50.6	35.0	11.4
2019年	113.1	36.9	0.0	0.0
2020年	151.9	51.9	0.0	0.0
2021年	255.7	87.5	0.0	0.0
計	3342.8	1338.6	3,453.7	1,592.6

※CO₂削減量は環境省のデータにより算出

資料：生活環境課

10 下水道普及率

年 度	处理区域(ha)	供用開始人口(人)	普及率(%)	水洗化済人口(人)	水洗化率(%)
2010年	3,077	87,789	98.5	78,869	89.8
2011年	3,083	87,003	98.6	78,740	90.5
2012年	3,085	86,917	98.6	79,364	91.3
2013年	3,089	86,165	99.3	78,957	91.6
2014年	3,090	85,236	99.3	78,323	91.9
2015年	3,094	84,333	99.3	78,083	92.6
2016年	3,094	83,549	99.3	77,644	92.9
2017年	3,096	82,055	99.3	76,724	93.5
2018年	3,096	80,868	99.3	75,813	93.7
2019年	3,096	79,855	99.3	75,315	94.3
2020年	3,096	78,910	99.3	74,681	94.6
2021年	3,097	77,786	99.3	73,771	94.8

資料：下水道課

第4部 市の取組み実績

■市の取組みについて

環境基本計画第5章「取組みの方向と行動指針」に基づき、市の取組み実績を整理しています。

行動指針1 森林を利用し、保全します

- (1) 自然豊かな森林の保全、創造
 ①多様な動植物の生息・生育環境を守るため、森林の保全
 ②無秩序な森林開発を抑制
 ③針葉樹と広葉樹の針広混交林整備を進め森林の保全
- (2) 地元産材の利用促進
 ①地元産、国内産の木材を利用
 ②パレットストーブや薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器の設置・利用促進
- (3) 災害に強い森づくり
 土砂災害防止、水源かん養など森林の有する機能を維持増進
- (4) 森林での自然体験、ボランティア活動
 ①森林を体験学習、保健休養の場として活用
 ②間伐、枝打ちなどの森林ボランティア活動を検討
- (5) 森林の持つ多面的機能などのPR
 森林の持つ多面的機能など、森林の適正管理の重要性についてのPR
- (6) 森林を活用する新たな方法の研究と実用化
 森林ツーリズムなど、新たな活用方法を検討

《行動指針1に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
除間伐等面積(市行造林)(ha)	68.60	27.38	32.92	50.74	75.51	50.83	61.82	35.6	32.32	26.00	23.69	55.54	36.24	11.83	農林水産課
間伐材による土留工数(箇所)	192	188	158	107	56	22	24	20	22	20	37	35	28	25	農林水産課
広葉樹樹面積(ha)	1.37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.33	1.5	農林水産課
〃 苗木提供数(本)	300	137	117	86	130	53	35	60	40	30	35	30	0	0	農林水産課
豊岡産パレット製造量(t)	—	—	—	293	516	644	684	534	382	337	288	131	—	—	農林水産課
市施設木造・木質化・パレットストーブ導入数															
新築)(棟)	5	3	0	4	2	1	4	1	3	2	1	0	0	0	建築住宅課
(増築)(棟)	3	1	2	1	2	1	1	0	1	0	0	0	0	1	建築住宅課
パレットストーブ設置数(台)	5	3	0	4	27	0	18	0	0	0	0	0	0	0	農林水産課
パレットボイラー設置数(台)	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	農林水産課
特用林産物生産量(kg)	—	—	—	—	—	—	—	—	420,786	461,151	397,808	378,181	303,176	336,779	農林水産課
住宅用パレットストーブ設置補助数(件)	—	—	—	6	5	8	17	8	7	9	7	5	5	9	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)	—	—	—	102	90	143	282	138	129	151	124	99	90	155	地球温暖化防止対策室
住宅用パレットボイラー設置補助数(件)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地球温暖化防止対策室
住宅用薪ストーブ設置補助数(件)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地球温暖化防止対策室
住宅用薪ボイラー設置補助数(件)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地球温暖化防止対策室
〃 補助金額(万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	地球温暖化防止対策室
奈佐森林公園利用者数(人)	5,482	5,081	3,606	3,874	4,703	4,367	4,737	5,167	5,532	4,084	4,492	4,255	1,563	2,344	農林水産課
竹野南森林公園体験教室開催数(回)	6	6	6	6	5	7	6	6	7	6	7	6	4	5	竹野 地域振興課
〃 参加者数(人)	91	96	84	103	120	169	91	117	122	115	118	95	54	79	竹野 地域振興課

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
竹伐採ボランティア数(人)	25	15	—	49	116	123	105	19	0	0	0	0	0	5	コウノトリ共生課

行動指針2 川や海などの水辺環境を保全します

(1) 多自然型の川づくり、砂浜の侵食防止

- ①人と自然がふれあえる多自然型の川づくりを促進
- ②砂浜の侵食を防ぐなど海辺の保全を促進

(2) 多様な生きものが生息できる水辺環境の保全

- 多様な生きものが生息できる水辺づくりを促進

(3) 河川等での環境美化活動

- ①地域等で行われる川や海辺の清掃活動を促進
- ②海などでの漂着ごみの撤去

③川や海に流れ込む草、わらを削減するよう啓発

- ④川や海にごみを捨てないよう啓発
- ③稚魚の放流など水産資源の維持育成を促進
- ④水産加工ごみの効率的な処理や有効活用を支援

(4) 水の利用と水質の保全

- ①水道の水質の向上、水量の確保
- ②節水や水の再利用
- ③下水道の整備、利用促進により水質の悪化を防止
- ④農業排水による川の水の濁り防止について啓発

(5) 水産業の振興

- ①資源管理型漁業(自主的な採捕制限)を促進
- ②魚礁の設置など自然環境に配慮した漁場の拡大

《行動指針2に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
湿地管理ボランティア数(人)	56	44	16	70	50	40	40	30	15	55	79	67	20	23	コウノトリ共生課
漁港漂着ごみ清掃委託数(箇所)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	農林水産課
海岸清掃・管理委託数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	建設課
海岸漂着物地域対策(GND事業)(t)	412	395	411	399	398	395	392	416	423	(※)	424	431	422	423	生活環境課
不法投棄監視カメラ(台)	88.2	88.8	89.8	90.5	91.3	91.6	91.9	92.6	92.9	93.5	93.7	94.3	94.6	94.8	生活環境課
不法投棄防止看板設置・配布数(枚)	439	434	440	429	424	427	423	426	421	424	428	431	422	423	生活環境課
上水道配水量(1人/日)(ℓ)	412	395	411	399	398	395	392	416	423	(※)	424	431	422	423	水道課
簡易水道配水量(1人/日)(ℓ)	88.2	88.8	89.8	90.5	91.3	91.6	91.9	92.6	92.9	93.5	93.7	94.3	94.6	94.8	水道課
水洗化率(%)	87.6	88.3	89.5	90.1	91.0	91.3	91.6	92.3	92.7	93.3	93.7	94.3	94.7	94.8	下水道課
(公共下水道)	90.2	90.8	91.1	92.0	92.5	92.7	92.9	93.6	93.9	94.3	93.9	94.2	94.2	93.8	下水道課
(集落排水等)	0	98	120	0	0	110	88	57	48	44	64	32	29	40	農林水産課
魚礁設置数(個)	188	191	173	191	191	191	191	191	191	167	183	185	186	186	農林水産課
河川の稚魚・貝放流補助金(万円)															

※簡易水道事業は、2017年度から上水道事業に統合。

行動指針3 様々な生きものが育む豊かな農地を保全します

(1) 環境創造型農業の推進

- ① 農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業を推進
- ② 多様な生きものの生息場所、降雨時の保水のため、農地の保全を促進
- ③ 「コウノトリ育む農法」を推進し、たくさん生きものが住む農地の拡大を促進
- ④ 田んぼに生きものが生息できるための魚道等の整備を促進
- ⑤ 耕作放棄地の拡大防止

(2) 元気になる農業づくりの推進

- ① 安全・安心な農産物生産を促進
- ② 消費者と農業者との交流を促進
- ③ 県(森林動物研究センター)と連携し、有書鳥獣の計画的な駆除・防除
- ④ シカやイノシシ肉などの食材としての利用拡大策を検討

(3) 畜産業の振興

家畜ふん尿をたい肥として利用する耕畜連携を促進

(4) グリーンツーリズムの推進

農家民宿、市民農園などによる体験交流型農業を促進

《行動指針3に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
コウノトリ育む農法作付面積 (ha)	183.1	212.3	219.5	234.1	251.6	269.7	292.7	329.3	366.1	407.1	418.8	428.0	425.7	434.6	農林水産課
農地・水・農村環境保全活動組織(組織)	133	133	133	133	114	116	116	124	133	125	121	116	117	121	農林水産課
冬期湛水水面積 (ha)	64.8	72.2	83.5	137.0	189.3	212.4	251.7	254.3	401.1	423.02	438.1	407.7	337.9	342.2	農林水産課
育むお米 取扱店舗数(店舗)		325	400	500	500	500	500	500	500	500	500	—	—	—	農林水産課
魚道設置箇所(累計)(箇所)	107	110	111	111	111	111	112	141	140	140	151	152	152	152	農林水産課
コウノトリの舞 認証団体数(団体)	43	41	44	46	49	52	55	54	53	52	50	50	51	53	農林水産課
〃 農産物数(品目)	34	33	32	29	29	31	39	30	31	26	23	20	23	24	農林水産課
〃 食品数(食品)		1	2	2	5	6	6	6	5	2	2	2	4	4	農林水産課
J A たいま作物別生産部会数(部会)	33	33	27	27	27	27	27	34	34	34	34	34	34	34	農林水産課
中山間地域等生産活動支援地区数(地区)	39	38	32	32	32	36	36	40	40	40	41	41	39	40	農林水産課
農地転用面積(許可書交付)(ha)	10.5	6.4	6.1	4.9	7.9	8.5	6.9	6.4	7.8	6.3	10.1	6.9	8.4	7.3	農業委員会
遊休農地面積(調査時の概括)(ha)	116.5	132.5	132.8	127.7	100.6	68.8	66.9	71.6	64.1	76.1	83.0	92.8	92.5	86.3	農業委員会
耕畜連携堆肥利用事業面積 (ha)	135.4	152.2	152.8	150.8	165.1	167.2	181.3	148.4	164.9	170.3	183.5	190.2	165.6	168.1	農林水産課
市民農園設置数(箇所)	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	農林水産課
〃 同区画数(区画)	371	253	253	253	253	213	213	213	213	345	345	345	345	345	農林水産課
〃 同利用区画数(区画)	137	194	194	194	201	185	133	170	138	138	138	118	117	118	農林水産課
農家民宿数(戸)	5	5	5	5	5	5	4	4	—	3	4	3	3	3	農林水産課

・湿地整備は行動指針2に記載
 ・有書鳥獣の駆除、防除は、行動指針5に記載

行動指針4 農林水産業の新たな担い手を育成します

(1) 農林水産業の担い手育成

豊岡農業スクールなどにより、農林水産業の担い手の育成、確保

(2) 農林水産業の就業環境改善支援

技術指導や住宅提供など、新規就労者への生活支援

(3) 農林水産業の魅力の発信

豊岡における農林水産業の魅力を、広く全国にPR

《行動指針4に関する豊岡市の取り組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
農業スクール研修生(人)						3	2	2	3	4	6	7	5	5	農林水産課
認定農業者数(経営体)	116	110	113	115	119	122	134	132	131	129	133	134	123	123	農林水産課
集落営農組織数(集落)	37	39	40	41	41	45	49	52	53	55	57	56	56	50	農林水産課
農業法人数(法人)	11	11	13	16	19	19	20	21	24	27	30	30	33	33	農林水産課
林業法人数(法人)	1	1	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	4	農林水産課

行動指針5 生きものがバランス良く生息する自然環境を保全します

(1) 多様な生きものの生息環境の保全

- ①ピオトープづくりを推進
- ②農薬や化学肥料に頼らない環境創造型農業を推進
- ③自然環境に配慮した多自然型の工事
- ④開発にあたっては、野生動物植物の生息・生育環境に配慮し、保全
- ⑤生きものとのふれあう体験学習の場を提供

(2) 野生動物植物の保護

- ①野生動物植物の生息・生育状況を調査し、情報を提供
- ②希少動物植物を保護

(3) 野生動物対策の推進

- ③ペット動物は責任を持って飼育するよう啓発
 - ④地域固有の生態系を保全するため、外来種を持ち込まないよう啓発
 - ⑤シカやイノシシ、クマなどの生息環境を保全し、健全な里山づくり
- 県(森林動物物研究センター)と連携し、有害鳥獣の計画的な駆除・防除

(4) コウノトリの野生復帰の受け皿づくり

- ①コウノトリのエサ場、ねぐらなど生息環境保全
- ②コウノトリ野生復帰の取組みの様々な情報を発信

《行動指針5に関する豊岡市の取り組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
ピオトープ水田面積(ha)	12.5	7.8	11.9	12.2	12.7	12.5	12.4	12.8	12.6	12.6	11.4	13.0	12.9	11.9	コウノトリ共生課
生きものとのふれあう体験学習(公民館)(館)	5	5	5	6	7	7	6	5	2	3	4	3	0	3	コウノトリ共生課
// (小学校)(校)	4	5	14	12	20	16	17	13	12	10	11	12	10	11	コウノトリ共生課
コウノトリKIDSクラブ(人)			14	24	19	12	12	16	5	5	21	18		18	コウノトリ共生課
コウノトリKIDSクラブ(回)			7	9	8	8	8	9	8	10	10	8	2	7	コウノトリ共生課
コウノトリ情報誌「FLY TO THE WILD」発行(回)	4	4	3	3	1	0	0	0	0	0	9	14	3	7	コウノトリ共生課
小さな自然再生活動支援助成事業(件)				2	3	1	4	8	10	10	12	12	3	7	コウノトリ共生課
ペット飼育マナー啓発(広報掲載)(回)	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
// (チラシ配布)(回)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
外来種(魚)駆除回数(回)	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	0	2	3	コウノトリ共生課

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
防護柵設置延長(補助金分)(m)	24,730	71,628	42,174	69,679	73,557	19,290	37,530	42,713	93,452	91,727	46,260	24,058	29,234	31,695	農林水産課
〃 地区数(地区)	32	47	22	57	29	17	21	29	41	37	18	18	14	9	農林水産課
〃 個人数(人)	57	76	42	104	62	28	59	59	51	48	22	16	41	26	農林水産課
防護柵、捕獲柵等補助金額(万円)	716	9,588	7,740	7,885	9,104	4,204	4,183	5,597	9,437	13,277	5,853	4,932	3,361	4,969	農林水産課
有害鳥獣駆除数 シカ(頭)	2,238	2,334	3,104	2,689	2,675	3,483	4,041	4,815	4,247	4,476	4,142	4,452	5,090	4,723	農林水産課
〃 イノシシ(頭)	779	1,420	1,624	926	751	1,155	1,383	1,809	1,340	988	891	1,624	944	1,132	農林水産課
〃 その他(頭)	95	85	138	85	122	101	183	308	435	645	1,373	1,922	1,921	2,226	農林水産課
バツファゾーン整備面積(ha)		19.34	18.93	17.4	26.49	15	15	15	0	0	0	0	0	0	農林水産課
箇所数(箇所)		4	5	6	5	3	5	5	0	0	0	0	0	0	

行動指針6 公害や災害を防ぎ住みよい環境を守ります

(1) 大気汚染の防止

- ①大気汚染物質の発生防止を指導、啓発
- ②廃棄物等の野焼き防止を指導、啓発
- ③公共交通機関の利用を促進
- ④アイドリングストップなどエコドライブを推進
- ⑤粉塵の発生防止を指導、啓発

(2) 騒音・振動の防止

- ①基準を超える騒音、振動等の発生防止を指導、啓発
- ②保有車両を適正に点検、整備

(3) 悪臭の防止

- ①悪臭の発生防止を指導、啓発
- ②家畜ふん尿等の適正処理を指導、啓発

(4) 地盤沈下の防止
地下水の利用抑制を促進

(5) 工業等における適切な事業活動の推進

- ①公害の発生を防止し、監視や指導、啓発
- ②公害防止協定の締結により、公害の未然防止
- ③水質汚染・土壌汚染調査を定期的に実施公表

(6) 有害化学物質の適正な管理

有害化学物質の適正な管理を指導

(7) 光害の低減

光害の低減を検討

(8) 災害時の廃棄物処理

廃棄物処理に関する広域協定を踏まえ、災害時の廃棄物の適正な処理

(9) 備蓄物資の適正配置及び循環利用の啓発

備蓄物資の適正配備及び循環利用の啓発に努めます

(10) 災害に強い森づくり

- ①間伐材も含めた地元産木材の利用を促進します。
- ②土砂災害防止、水源かん養林など、森林の有する機能の維持増進
- ③針葉樹と広葉樹の針広混交林整備を進め、森林の保全

《行動指針6に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
大気汚染の苦情受理件数(件)	6	9	9	5	15	5	11	20	11	12	13	10	6	6	生活環境課
JR豊岡市民号利用者数(人)	147	142	107	75											都市整備課
市街地循環バス(コバス)利用者数(人)	37,688	40,744	47,175	47,796	48,216	47,438	50,395	51,066	56,100	57,889	52,574	48,254	41,634	47,488	都市整備課
市営バス(イナカー)利用者数(人)	51,729	93,956	81,736	77,815	79,065	74,543	59,496	58,102	59,130	59,459	53,622	47,332	43,404	46,335	都市整備課
市職員「e通勤」実施者数(人)	49	529	459	449	438	419	417	405	396	396	383	377	379	369	都市整備課
豊岡ノーマイカーデー参加者数(人)					1,181	2,133	1,415	1,697	1,584	1,565	1,445	1,193	758	694	都市整備課

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
特定建設作業の届出件数(件)	644	619	511	549	528	636	520	395	433	431	645	648	481	549	生活環境課
騒音・振動等特定施設届出施設数(施設)	41	16	33	54	25	28	28	43	34	32	23	20	19	18	生活環境課
騒音・振動の苦情受理件数(件)	6	6	4	5	3	5	1	5	4	2	6	6	9	10	生活環境課
悪臭の苦情受理件数(件)	5	8	9	6	8	4	7	12	6	6	7	11	11	5	生活環境課
水質・土壌汚染苦情受理件数(件)	20	15	13	16	7	1	4	4	7	10	10	6	7	9	生活環境課

行動指針7 地域の文化や景観を保全し、活用します

(1) 文化財の保護と活用

- ①文化財の保護活動
- ②開発する際には文化財を保護
- ③文化、歴史の講座を開催

(2) 地域に伝わる伝統行事、文化の継承

伝統行事や文化の継承を支援

(3) 芸術、文化活動の振興

芸術・文化活動の活性化を支援

(4) 地域の特色ある景観の保全

- ①歴史や伝統のある建物、景観を生かしたまちづくりを推進
- ②まちのシンボルとなる文化、歴史資源の観光への活用

(5) 環境美化意識の高揚

- ①公共施設の緑化や花づくりを推進
- ②街路樹等の適切な管理
- ③地域の緑化や花づくり活動を促進
- ④庭に花を植えるなど良好な景観を演出する取組みを促進

(6) 緑豊かな公園の整備

- ①子どもから高齢者までが安心して遊び、憩えるように配慮
- ②自然環境、地形、地域の植生に配慮
- ③開菜にあたっては公園の整備
- ④公園の清掃、適正管理
- ⑤施設、公園の利用上のルールやマナーの遵守を啓発

《行動指針7に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
遺跡確認調査件数(件)	7	5	5	3	12	8	12	13	16	12	11	9	7	7	文化・スポーツ振興課
文化財防災訓練(回)	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	文化・スポーツ振興課
文化財パトロール数(件)	—	226	162	177	107	121	112	125	—	—	—	—	—	—	文化・スポーツ振興課
文化財保護補助金交付数(件)	13	14	13	9	7	12	5	6	7	6	4	8	4	5	文化・スポーツ振興課
〃 補助金額(万円)	30	518	251	193	33	77	608	1,392	112	24	6	43	954	123	文化・スポーツ振興課
事業に先立つ埋蔵文化財調査数(件)	6	9	6	6	8	3	3	14	14	10	11	13	8	5	文化・スポーツ振興課
発掘調査現地説明回数(回)	2	1	1	1	0	0	2	1	2	0	0	0	1	0	文化・スポーツ振興課
但馬国府・国分寺館公開講座数(講座)	3	4	3	12	11	16	19	11	19	19	5	5	5	14	文化・スポーツ振興課
〃 参加者数(延べ)(人)	290	552	238	389	248	417	323	305	643	770	124	147	28	220	文化・スポーツ振興課

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
日本・モンゴル民族博物館体験講座(講座)	10	23	16	10	7	8	11	9	7	8	8	23	34	28	文化・スポーツ振興課
" 参加者数(延べ)(人)	70	344	162	112	82	94	140	106	169	207	175	137	356	414	文化・スポーツ振興課
伝統芸能伝承事業補助数(件)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	0	0			文化・スポーツ振興課
" 補助金額(万円)	96	96	96	96	96	96	96	96	96	81	0	0			文化・スポーツ振興課
豊岡市美術展出品数(点)	6,829	6,394	6,281	6,337	6,422	6,316	6,111	5,970	5,925	4,037	3,201	3,016	2,804	2,570	文化・スポーツ振興課
" 入場者数(人)	10,644	9,351	9,393	9,411	10,041	9,202	9,116	9,652	9,041	8,503	8,805	9,392	10,381	2,939	文化・スポーツ振興課
入館者数(出石永楽館)(人)	未計数	14,733	16,370	14,191	15,102	17,751	18,066	25,263	22,316	21,085	27,967	25,622	9,083	8,555	出石・地域振興課
" (歴史博物館)(人)	9,034	10,030	9,512	8,007	8,345	7,727	8,090	8,319	7,120	7,225	6,596	6,085	2,613	3,436	文化・スポーツ振興課
" (日本・モンゴル民族博物館)(人)	16,848	14,591	11,623	10,553	11,755	10,657	10,017	9,840	9,885	13,367	10,852	10,244	4,963	7,525	文化・スポーツ振興課
" (市立美術館-伊藤清永記念館)(人)	12,368	15,582	5,497	6,440	6,834	8,653	9,827	8,350	7,108	10,009	9,874	6,583	5,036	10,186	文化・スポーツ振興課
" (植村直己冒険館)	31,109	28,835	25,259	30,900	22,866	25,062	26,999	26,051	22,651	22,362	23,992	17,714		58,205	生涯学習課
自主事業入場者数(豊岡市民会館)(人)	6,018	8,949	8,066	7,175	5,999	9,262	10,297	8,993	5,783	8,590	7,987	9,600	2,217	3,156	文化・スポーツ振興課
" (出石文化会館)(人)	1,790	1,307	1,707	1,260	726	1,295	782	628	290	982					出石・地域振興課
使用者数(豊岡市民会館)(人)	113,173	108,517	110,204	115,611	107,932	88,071	80,889	94,591	85,745	86,001	99,258	73,118	26,773	34,843	文化・スポーツ振興課
" (出石文化会館)(人)	20,148	20,662	22,769	17,732	17,017	12,915	19,312	17,014	21,211	16,725	6,565				出石・地域振興課
" (多目的室)(人)															出石・地域振興課
" (豊岡市民プラザ)(人)	107,005	104,758	113,184	120,973	128,437	123,746	116,678	109,734	119,528	129,245	130,402	129,278	47,234	51,948	生涯学習課
出石伝統的建造物群保存事業補助数(件)	4	5	7	5	6	5	4	5	4	5	3	4	4	4	出石・地域振興課
" 補助金額(万円)	1,773	2,258	3,581	2,996	3,221	2,331	2,366	2,450	2,490	2,473	1,673	2,653	2,401	2,409	出石・地域振興課
ジオパークジオガイド養成講座(回)			4	2	20	11	2	1	0	1	1	0	1	2	大交流課
小・中・高生シオ講座受講者(人)			277	134	60	164	32	0	109	550	198	164	357	318	大交流課
屋外広告物の許可数(件)	219	125	174	157	219	178	183	157	160	168	159	177	135	159	都市整備課
景観形成事業助成数(件)	9	3	8	3	3	5	4	1	6	2	1	1	1	1	都市整備課
" 助成金額(万円)	162	44	1,055	79	93	128	79	17	773	155	25	11	25	28	都市整備課
花のある道づくり事業植栽花苗数(箇所)	29	27	28	27	27	27	27	22	22	22	22	22	18	18	生活環境課
「ヤナギ」植栽管理数(箇所)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	生活環境課
「サツキ」植栽数(箇所)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	生活環境課
花苗の配布数(団体)	209	212	163	161	161	142	110	128	111	111	125	214	226	218	生活環境課
花と緑のまちづくり事業数(回)	5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
都市公園数(箇所)	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	都市整備課
開策行為による公園数(箇所)	52	52	52	52	52	52	52	53	53	53	53	54	54	6	都市整備課

行動指針8 地域コミュニティ組織を中心に、地域力を高めます

(1) 河川等での環境美化活動
地域等で行われる川や海辺の清掃活動を促進促進

(3) 環境を考える事業の実施
①市民環境講座を実施
②環境問題をテーマにした各種イベントを実施

(4) 環境に取り組む団体の育成
地域で環境活動に取り組む団体や個人の育成・支援

(2) 地域における環境教育の推進
リサイクルや省エネルギー、地球温暖化等の環境学習・教育推進

③クールスポットを開設することにも、より多くの人が集まる企画
をすることにより、コミュニティセンターを多世代にわたる交流の
拠点

(5) 地域コミュニティの取組みへの支援と情報提供
地域コミュニティの取組みを支援し、情報を提供

《行動指針8に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
コウノトリ文化館市民講座開催回数(回)	10	5	3	4	2	4	1	14	22	17	26	38	47	56	コウノトリ共生課
マイバッグ啓発活動実施店舗数(件)	11	13	6	8	4	3	3	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
地域力再生補助(環境活動支援)件数(団体)	3	5	2	2	2	2	0	0	1						コミュニティ振興課
〃 補助金額(万円)	56	48	37	23	38	43	0	0	50						コミュニティ振興課
市民エコポイント発行数(P)					24,888	49,689	41,800								環境経済課
企業エコポイント発行数(P)					294.5万	483.5万	545.5万								環境経済課
健康・環境エコポイント制度(※1)															
健康ポイント手帳交付者数(人)								4,429	4,860	5,677	5,716				健康増進課
環境行動実践者数(人)								281	535	613					環境経済課
健康ポイント引換者数(人)(※2)												3,440	4,384	4,360	健康増進課

※1 市民エコポイントと企業エコポイントは、2015年から健康ポイントと統合されました。

※2 制度のリニューアルにより、2019年度から手帳、シート、スマホアプリのポイントを交換した延べ人数になりました。

行動指針9 環境意識を高める学習・教育を進めます

(1) 環境を考える事業の実施

(2) 環境に関する学校教育の推進
小中学校において、環境に関する学校教育を促進

(3) ふるさと教育の推進

市内小中学校において、「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」を
共通の課題に、豊岡の世界に誇れる「ひと・こと・もの」に学ぶ授業
を展開

《行動指針9に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
エコハウス暮らしの講座等実施(回)			8	8	7	1	0	0	0	0	0	0			環境経済課

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
出前講座(環境学習関係)実施回数(回)	9	22	23	14	15	71	20	10	12	11	18	15	18	7	秘書広報課
受講者数(人)	247	652	703	332	564	3,987	762	188	299	436	406	343	465	301	秘書広報課
子どもの野生復帰大作戦参加者数															
(子どもコース)(人)	198	235	152	99	99	83	67	62	61	55					生涯学習課
(指導者養成)(人)	12	30	—	—	24	11	0	—	—	—					生涯学習課
(親子コース)(組)	—	44	67	52	51	61	66	45	40	42					生涯学習課
(野外キャンプ)(人)	159	138	62	72	73	91	115	57	—	91					生涯学習課
周年型体験プログラム(人)											80	99	98		生涯学習課
単年型体験プログラム(人)											86	80	95		生涯学習課
成人対象体験プログラム(人)											25	28			生涯学習課
地域の歴史・文化・伝統芸能等の体験教育実施校数															
(小学校)(校)	20	22	22	22	23	23	29	23	23	27	29	29	29	27	こども教育課
(中学校)(校)	4	4	4	4	7	7	7	8	6	6	4	4	4	4	こども教育課
地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数															
(小学校)(校)	30	30	30	30	30	30	29	18	21	25	28	29	29	27	こども教育課
(中学校)(校)	0	1	1	1	4	4	5	7	4	7	8	9	9	9	こども教育課
自然学校参加者数(人)	870	862	851	847	828	762	749	747	702	750	718	718	725	703	こども教育課
農業体験(稲作)実施校数(小学校)	13	14	20	20	22	20	19	18	20	19	23	21	10	12	こども教育課
里山観察等実施校数(小学校)	9	8	7	7	20	16	14	18	16	15	26	15	15	14	こども教育課
川の体験活動実施校数(小学校)(校)	11	17	19	22	29	27	28	29	29	28	27	27	25	25	こども教育課
小・中学校ファイティン・ファイティンシステムによる削減効果(2014年からシステム見直しのため2010年比)※2013年度以前は2005年度比(%)	-3.9	-10.7	-7.7	-10	-8.6	-11.2	-7.4	-8.2	-7.6						教育総務課
出張！田んぼの学校(回)		3	3	4	11	16	20	24	21	15	16	15	5	10	コウノトリ共生課

行動指針10 環境に関する知を集積し、活かします

- (1) 環境をテーマとした連携の強化・拡大
 - ① 高等教育機関を核とした研究者や企業の交流を促進
 - ② 異業種の交流を促進
 - ③ 環境経済型企業の育成・誘致推進
 - ④ 事業者と研究者をつなぎ、産学連携を効果的に推進
- (2) 環境を研究する機関との連携・協力
 - 環境を研究する機関との連携・協力の推進
- (3) 環境に関するオピニオンリーダーとしての国内外への情報発信
 - 先進的な取り組みを、国内外へ発信

《行動指針10に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
産学連携協定締結数(校)		1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0			環境経済課
稽古堂塾参加者数(人)							20	23	23	24	24				環境経済課
コウノトリ野生復帰学術研究補助(件)	4	9	8	5	7	7	7	6							コウノトリ共生課
高校生等地域研究支援補助金(件)									2	3	7	5	6	5	コウノトリ共生課

行動指針11 ごみの減量・再資源化を進めます

(1)ごみの減量化

- ①ごみの適正な分別を促し、ごみの減量化を推進
- ②レジ袋削減、マイバッグ持参運動を推進
- ③パンフレット、チラシ等の削減を推進
- ④5R運動を推進
- ⑤レジ袋の有料化、包装の簡略化など環境への負荷を低減する販売方法を促進
- ⑥環境への負荷を低減する製品の開発を促進
- ⑦ごみや汚泥の広域処理計画推進

(2)ごみの再資源化

- ①地区、PTA等による資源ごみの回収活動を支援
- ②再生资源利用製品を購入
- ③学校での児童・生徒によるリサイクル活動を推進
- ④量販店等による空き容器、牛乳パック、食品トレーなどの拠点回収を支援
- ⑤家庭から出る生ごみたい肥化を支援

ごみの減量化・再資源化のための啓発

(4)事業活動による廃棄物の適正処理

- ①産業廃棄物、建設廃棄物の適正な処理を促進
- ②建築廃材の再利用を促進
- ③農業廃棄物のリサイクルを促進
- ④食品廃棄物の回収システムを検討
- ⑤食品廃棄物の堆肥化を促進

(3)ごみの減量化・再資源化のための啓発

《行動指針11に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
ごみ搬入量(t)	29,448	28,374	27,796	28,736	28,944	28,362	28,568	28,934	27,185	26,776	26,603	26,806	26,219	25,850	生活環境課
〃 12年度(42,878t)との比較(%)	-31	-34	-35	-33	-33	-34	-33	-32	-36	-38	-38	-38	-39	-40	生活環境課
レジ袋有料化等協定数(件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	生活環境課
資源ごみ集団回収量(t)	3,646	3,451	3,422	3,242	3,076	3,062	2,922	2,718	2,526	2,448	2,344	2,243	1,866	1,715	生活環境課
〃 補助金申請団体数(延べ)(団体)	657	664	662	635	634	644	651	663	655	672	655	646	583	563	生活環境課
〃 補助金額(万円)	2,171	2,054	2,037	1,926	2,120	2,114	2,017	1,875	1,740	1,687	1,617	1,544	1,282	1,182	生活環境課
資源ごみ常設回収庫補助件数(地区)	2	3	4	0	1	1	2	0	1	1	3	0	1	0	生活環境課
市単協契約物品のうち再生利用品(品目)	97	101	94	95	89	89	89	89	89	90	92	94	98	93	総務課
〃 グリーン購入法適合品(品目)	53	60	52	78	88	67	69	69	69	70	72	75	78	85	総務課
〃 エコマーク付商品(品目)	39	81	27	28	57	50	53	53	53	54	60	63	70	46	総務課
学校資源ごみ回収実施校数(小中学校)(校)	12	28	28	34	36	35	29	36	33	33	34	34	34	34	こども教育課

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
低公害車・低燃費車購入台数(台)	11	3	—	—	—	—	—	—	0	0	0	1	1	0	総務課
公用車 低公害車・低燃費車割合(%)	49.4	53.8	57.7	64.0	62.5	70.5	70.0	68.7	65.9	80.9	82.6	82.9	83.6	83.5	総務課
省エネ器具購入数(件)	11	34	37	17	11	13	12	19	45	46	40	10	7	25	総務課
市の施設のCO2削減(2007排出量比)(%)			5.10	8.04	8.44	9.76	12.91	14.51	19.86	22.37	24.76	26.04	30.36	33.48	総務課
校園庭芝生化事業の実施(校園)		7	14	9	9	5	2	0	0	0	0	0	0	0	教育総務課
校園庭芝生化事業の実施(m)		15,880	32,220	29,880	28,440	15,520	3,650	0	0	0	0	0	0	0	教育総務課

行動指針13 地産地消を進めます

(1) 安全、安心な農林水産物の地元消費

- ①地元でとれた安全・安心な農林水産物を学校給食に使用
- ②地元でとれた安全・安心な農林水産物の地元消費を促進
- ③食品の産地表示促進

(2) 消費者と農林水産業者との交流

消費者と農林水産業者との交流を促進

(3) 食生活の向上と食育

- ①エコクッキング(環境にやさしい料理法)などを普及啓発
- ②旬の野菜や伝統食の良さを普及啓発
- ③食に関する情報を提供
- ④乳幼児から発達段階に応じた食育を推進

《行動指針13に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
学校給食での豊岡産野菜利用率(%)	28.6	31.1	28.0	26.8	23.1	22.8	28.9	27.1	22.0	25.2	28.8	37.1	30.2	30.8	教育総務課
学校給食での米飯給食回数(週5日のうち)															
市内産米(回)	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	教育総務課
うちコウノトリ育むお米(回)	0	1	1	2	2	2	2	3	5	5	5	5	5	5	教育総務課
コウノトリの舞証農産物数(品目)	34	33	32	29	29	31	39	30	31	26	23	20	23	24	農林水産課
〃 加工品数(商品)		1	2	2	5	6	6	6	5	2	2	2	4	4	農林水産課
マロニエの里認証商品数(商品)	46	23	21	21	21	15	20	14							日高・地域振興課
旬を楽しむ会実施回数(回)							2	2	2	1	0				環境経済課
〃 延べ参加人数(人)							200	200	200	100	0				環境経済課
市広報での食育PR回数(回)		6	6	4	4	3	0	0	0	0	0	1	0	0	健康増進課
成人向け栄養改善教室実施回数(回)	57	80	96	201	240	192	179	138	137	126	211	207	119	121	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	810	1,483	1,969	2,967	2,419	2,033	2,165	1,991	1,995	1,828	2,913	2,396	1,003	1,402	健康増進課
食育教室(保育園・幼稚園)実施回数(回)	17	32	36	34	36	33	38	36	36	36	29	28	29	27	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	589	767	874	745	861	919	1,193	1,056	1,077	969	570	493	476	432	健康増進課
〃 (未就学児・保護者)実施回数(回)	13	23	78	77	80	40	33	36	45	36	33	33	24	23	健康増進課
〃 受講者数(延べ)(人)	175	365	405	546	611	550	583	498	724	629	584	551	232	303	健康増進課

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
離乳食講習会実施回数(回)	90	88	90	90	90	87	87	87	88	89	89	88	88	85	健康増進課
受講者数(延べ)(人)	1,535	1,326	1,478	1,344	1,458	1,373	1,220	1,175	1,235	1,147	1,029	956	821	922	健康増進課
幼児食講習会実施回数(回)	123	123	106	106	106	98	97	96	94	94	91	87	84	78	健康増進課
受講者数(延べ)(人)	800	1,512	1,444	1,519	1,435	1,517	1,316	1,362	1,222	1,151	1,144	1,059	911	971	健康増進課
子育てセンター食育事業回数(回)	21	14	22	23	18	18	23	36	52	50	50	54	13	11	こども育成課
保育園料理教室等開催回数(回)	23	23	23	23	23	23	23	24	24	25	26	23	12	8	こども育成課

・食品の産地表示促進(コウノトリの舞認証農産物)は行動指針3に記載
 ・農薬や化学肥料に頼らない農産物は行動指針3に記載

行動指針14 環境と経済の共鳴を進めます

(1) 豊岡型地産地消の推進

- ① 農薬や化学肥料に頼らない農産物のブランド化を支援
- ② 朝市や農林漁業体験活動を支援
- ③ エコ商品開発、リサイクル等の環境経済型の事業(エコビジネス)を促進

(2) コウノトリツーリズムの展開

- ① コウノトリ、自然、歴史、文化資源等を生かした多様なツーリズム推進
- ② 市民によるツーリズムガイドの養成

(3) 環境経済型企業の集積

- ① 環境経済型企業の育成・誘致の推進
- ② 環境経済型の技術開発やゼロエミッションに取り組む企業を支援
- ③ 異業種交流を促進

(4) 環境ビジネスの創出支援

排出されたごみを可能な限り再利用する循環型の経済活動を支援

《行動指針14に関する豊岡市の取組み》

取組みの内容	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	関係部署
直売所設置数(件)	42	40	40	39	39	39	39	39	39	34	34	28	24	30	農林水産課
ファーマーズマーケット設置数(件)	5	6	6	7	6	6	6	6	6	1	1	1	1	1	農林水産課
コウノトリ文化館入館者数(人)	417,159	365,349	301,575	297,056	305,712	304,348	297,232	285,449	230,734	232,751	218,704	202,230	55,692	55,393	コウノトリ共生課
ツーリズムガイド利用者数(人)	8	269	674	626	279	217	206	281	247	187	133	103	0	12	コウノトリ共生課
環境経済事業推進補助金(件)	5	8													環境経済課
補助金額(万円)	499	661													環境経済課
技術革新等支援事業補助金(件)			7	6	8	2	4	1	4	4	2				環境経済課
(環境経済型関係) 補助金額(万円)			1,036	1,329	1,371	321	330	303	505	751	379				環境経済課
環境経済認定事業数(件)					35	6	5	10	6	8	6	3	2	3	環境経済課

第5部 環境審議会意見の反映状況 (市の取組み)

■環境審議会意見の反映

2019年度環境報告書(前々年度)で示された環境審議会の意見を、市がどのように施策に反映させたかを整理しています。

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

■森林が有する多面的機能の価値の周知について

【農林水産課】

- ・本市の豊かな森林は、水系により里から海へとつながり、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源のかん養、保健休養の場の提供など、極めて多くの多面的機能を有しており、私たちの生活と深く関わっています。まずは、コウノトリ野生復帰を背景に市域で栽培が進むおいしいお米や野菜、広大な森林からのミネラルが注がれた豊かな漁場で獲れるマツバガニやホタルイカ、森林環境を活用した神鍋高原キャンプ場など、すべての森林の恩恵とつながっていることを知っていただくことが大切だと考えます。

【コウノトリ共生課】

- ・加陽湿地や隣接する里山周辺の環境を活用した自然保育や自然体験イベント等の実施を通して、森林が有する多面的機能の価値の周知に努めていきます。

■間伐材を活用する仕組みづくりと啓発活動について

【環境経済課】

- ・環境経済認定事業には、地域の間伐材等を活用した木炭や木質ペレットの製造、間伐材を原料としたペレットを熱源として使用したハウス栽培など間伐材を活用する事業を認定しています。
- ・環境経済認定事業については、市HPへの掲載やJR豊岡駅改札前ショーケースでの展示、本庁舎1階総合案内横ディスプレイでPR画像を放映するなど、市民や国内外からの来訪者への周知を引き続き図っていきます。

【農林水産課】

- ・市内小中学校や公共施設等の既存ペレットストーブの有効活用をはじめ、間伐材を原料とする木質ペレット燃料の利用促進に努めます。併せて、搬出間伐による朝来バイオマス発電所への原木供給を促進し、再生資源への転換をより加速させます。また、公共建築物の整備において、スギ・ヒノキの間伐材を活用し可能な限り木造化、内装等の木質化を図ることで、民間の建築物等の木造・木質化への啓蒙につなげます。

【生活環境課】

- ・間伐材を活用することは、森林の更新を促し、CO₂吸収源の増加につながることから、引き続き、ペレットストーブ・ボイラー、薪ストーブ・ボイラーの補助事業を継続していきます。また、公共施設に設置されているペレットストーブを積極的に活用していきます。

■自然体験と環境教育を絡めた取り組みの促進について

【コウノトリ共生課】

- ・ふるさと教育では、子どもたちが実際に地域の田んぼやビオトープ等に入って生きもの調査を行っており、地域に暮らす生きものや豊岡の自然について学んでいます。
- ・市内の小学4～6年生を対象とする「コウノトリ KIDS クラブ」では、年間を通して、生きもの調査や自然再生活動を行っており、森林環境についても学ぶ機会を創出しています。
- ・市立加陽水辺公園では、隣接する加陽湿地や里山を活用し、事業者、地元地域、地域おこし協力隊、行政が連携して、自然保育や自然体験イベント等を実施しています。

【こども教育課】

- ・小学3年生の環境体験事業、小学5年生の自然学校を中心にして、豊岡の自然に触れたり自然の中で活動したりすることを通して、自然に対する畏敬の念や美しさに感動する心、ふるさと豊岡を誇りに思う心を育てています。

【こども育成課】

- ・保育園・幼稚園・認定こども園では、子どもの感性が豊かに育まれるよう、体験活動を積極的に行うよう努めています。今後も引き続き、園内・外の環境を活用した体験活動により、自然現象や生き物、植物への興味や関心が高まるよう、また、地域への親しみがもてるよう、保育の工夫を行います。

目標像②里山が様々に利用され、関わる人が増えています

■市民が里山に触れる機会の創出について

【コミュニティ振興課】

- ・地域コミュニティ活動のひとつとして、登山、ハイキング、里山の生き物調査や観察会など、里山を地域の資源として活用するイベントを開催されています。

【生涯学習課】

- ・「子どもの野生復帰事業」については、植村直己冒険館機能強化事業の中に引き継ぐものとして、冒険館のリニューアルオープンに伴い 2020 年度を持って終了し、冒険館で行われる「子どもたちの成長を応援し「生き抜く力」を育む体験や遊びのプログラム」に引き継ぎます。プログラムの検討においては、市内の里山も活用した内容で検討を促します。

【農林水産課】

- ・地域の活性化を兼ねた「神鍋溶岩流ウォーキング」や、加陽湿地の周辺森林で行われる森林自然体験イベントなど、「市民の山への入口」を目的とした多彩な森林ツーリズムの考案と促進を通じて、次世代を担う子どもたちや、地域の人々が森林に関わる機会の創出に努めます。

【コウノトリ共生課】

- ・市立加陽水辺公園では、隣接する加陽湿地や里山を活用し、事業者、地元地域、地域おこし協力隊、行政が連携して、自然保育や自然体験イベント等が実施されています。

【こども教育課】

- ・小学1、2年生の生活科で、学校区内の里山を歩いて木の実や落ち葉を拾うなどして、季節の移り変わりを学んでいる学校があります。また、小学3年生の環境体験で里山に入り体験学習を行うなど、校区や実情に合わせた里山での取組を行っています。

【こども育成課】

- ・季節や自然の偉大さ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、必要に応じて、クマやマダニ、マムシなど、身近な自然にある怖いものについて知らせたり、考えたりする機会をつくっています。

■市民への「山」に対する正しい知識や対処法等の周知について

【農林水産課】

- ・入山するに当たり、人に危害を加える恐れのある野生動物や生物への対策について、国や県からの

指導や対処方針等を参考に情報発信に努めます。また、知り得る範囲での地域住民による自主的な里山整備、森林を活用した交流や体験活動を実施する際には、事故やケガ等を未然に防ぐための注意喚起に配慮します。

【コウノトリ共生課】

- ・「山」に対する正しい知識や対処法等の周知は行っていません。

■駆除された有害獣の肉や皮のさらなる有効活用について

【環境経済課】

- ・ジビエ等に特化した事業支援は行っていません。個人の新規創業や、企業の新分野進出に向けた取り組みへの支援を引き続き実施していきます。

【農林水産課】

- ・市内には民間の処理加工施設が稼働していますので、捕獲個体の有効活用が図られるよう、要請があれば捕獲者に対して情報提供を行っていきます。

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

■家庭や事業所、こども園などでの「コウノトリ育むお米」の消費・利用促進について

【農林水産課】

- ・コウノトリ育む農法を含む市内の農業の魅力について、SNS等を通じた積極的な情報発信を行いました。また、子どもたちが地域の農業の特色を知り、愛着を持つきっかけとなるよう農林水産課職員と生産者が小学校を訪れ、コウノトリ育む農法についての出張授業を行っています。

【こども育成課】

- ・園給食において、白ご飯の提供は0～2歳児のみで、3歳以上児は白ご飯を持参しています。このことを踏まえ、全園児が白ご飯を食べられる機会になる行事食（誕生日会、クリスマス会など）などで、「コウノトリ育むお米」を使用しました。

■地元食材の地産地消促進による域内経済の活性化と地球温暖化対策について

【環境経済課】

- ・2022年4月1日に施行した「豊岡市中小企業振興基本条例」では、中小企業の振興によって地域経済の活性化・雇用の創出を促進し、市民生活の向上につなげていくこととしています。この条例において、市の施策の基本方針の一つに、受注機会の確保・地産地消の取組による域内需要の創出と経済循環の促進を掲げており、関係者が、それぞれの役割を果たしつつ一致団結し、まちぐるみで中小企業振興に取り組むことを目指しています。

【生活環境課】

- ・2022年3月に開催された環境イベント「エシカル ヴィレッジ（豊岡市後援）」では、地元産野菜やお米の量り売りなどのフードロス対策の販売店等も出店されました。温暖化対策×フードロス対策など、様々な利点を活かせる地産地消の促進、普及啓発に努めていきます。

■学校給食での地元食材使用による生産農家の自立支援について

【農林水産課】

- ・市内の若手農業者が中心メンバーになっている学校給食生産組合は、学校給食に野菜を提供しています。

【教育総務課】

- ・将来に渡り、安全安心な地元食材が安定して供給されることに繋がるよう、生産農家の自立支援にも配慮し使用の拡大に努めます。

■都会の人や若者が農業に関わることができる仕組みづくりについて

【環境経済課】

- ・当課では内発型産業育成の施策として、市内事業者の新事業展開や販路拡大を支援するステップアップ支援補助金や創業支援補助金を実施するほか、ビジネス相談窓口「IPPO TOYOOKA」を開設し、若者や女性を中心とした創業希望者や創業者の相談にも対応しています。
- ・創業支援補助金では、対象事業に事業承継も加えた支援、とりわけ若者や女性に対する補助率のかさ上げ等、起業・創業しやすい環境整備に努めています。また、農業に限らず後継者不足に悩む市内事業者への支援策として「豊岡市継業バンク」を開設し、様々な承継の形を創出することにより事業の譲り手と継ぎ手のマッチング機会の創出、コロナ禍を機に増加する移住希望者の更なる誘引を目指しています。

【農林水産課】

- ・市独自の農業研修制度として豊岡農業スクールを開校しているほか、国の制度である地域おこし協力隊制度を活用して、農業生産者や農業関係人口を養成しています。

【農業委員会事務局】

- ・農業委員会では、遊休農地の発生防止・解消のため、農地パトロール、所有者への利用意向調査を実施していますが、鳥獣害の発生や過疎化・高齢化を背景とした農家の減少により、その増加傾向は止まらない状況にあります。このような状況の下、農地法等関係法令に従いながら、様々な支援制度を活用し、多様な主体により、ビオトープ化も含め、適切な農地の管理が進められるよう期待するところです。

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

■市民が安全に利用できる水辺環境を整備し、水辺環境への関心を高める取組みについて

【コウノトリ共生課】

- ・河川等では、自然再生活動や清掃活動にあわせて、草刈りなどを行っていますが、安全面の配慮から河川全体で人が水辺に近づきにくい環境となっています。地域の人々が実施する自然再生活動や清掃活動にあわせて、人々が水辺に親しみをもてる環境づくりを働きかけるとともに、安全面に配慮しながら、小学校で実施する生きもの調査やコウノトリ KIDS クラブの活動等で河川等を利用していきます。

【建設課】

- ・市が管理する箇所は数多くあり、水辺環境についても、維持管理を行っていますが、実施回数や実施箇所については、限定的になっています。

■刈草の処理における新しい回収・運搬の仕組みづくりや資源化の検討について

【生活環境課】

- ・刈草の回収、運搬に関する仕組みづくりは現状できていません。刈草の資源化（民間処理施設で破碎し、燃料チップ化など）を行われている自治体もありますので、仕組みづくりやコスト等について情報を収集します。

【農林水産課】

- ・何か良い刈草の処理方法がないか、関係機関に相談しながら、情報を収集していきます。

【建設課】

- ・現段階では、新しい回収・運搬の仕組みづくりや資源化の検討は行っていません。

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

■外来種の適切な駆除や市民への周知について

【コウノトリ共生課】

- ・ハチゴロウの戸島湿地や加陽湿地では、通常管理の中でミシシippアカミミガメやウシガエル等の外来種駆除を実施する他、ボランティア作業の機会に駆除活動を実施しています。また、兵庫県と連携して、特定外来植物オオキンケイギクに対する注意喚起を行っています。

■コウノトリの絡まり事故を防ぐ防獣ネットの適切な管理や対策の周知について

【農林水産課】

- ・コウノトリ共生課が作成したチラシを農会長会で配布しています。

【コウノトリ共生課】

- ・不要な防獣ネット等の撤去や適切な管理等を依頼するチラシを作成し、年度初めの農会長会において、全農家配布を行い、注意喚起を図っています。

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

■誰もが参加しやすく、持続可能な地域づくりについて

【秘書広報課】

- ・広報紙、報道機関への資料配布や記者会見、防災行政無線、ホームページを通じて、各部署から寄せられるイベント情報などを発信し、市民の参加を促しています。2022年1月に広報紙公式ツイッターを開設し、幅広い世代への情報発信を目指しています。

【コミュニティ振興課】

- ・各地域コミュニティ組織では、2021年度～2023年度にかけて、地域づくり計画を策定し、誰もが参加しやすく、持続可能な地域づくりを目指します。

■子どもが地域行事に興味を持つような工夫や機会の提供について

【コミュニティ振興課】

- ・地域コミュニティ組織では、地域の伝統文化・行事などを調査し、次世代へ継承していくための取り組みとして、子どもたちと一緒に、ふるさとマップづくり、ふるさとカルタづくり、歳時記づくり、ふるさとカレンダーづくりなどを行うとともに、それらを活用し、まち歩き、カルタ大会、伝統行事の再現イベントなどを開催されています。

■地域外から来る人と地元の人との交流を促す機会の提供について

【秘書広報課】

- ・ホームページ等を通じて情報発信に努めています。ホームページの多言語化や、市内在住の外国人を紹介する記事を広報紙に掲載するなどして、多文化との交流も意識しています。

【コミュニティ振興課】

- ・2020年度から、地域コミュニティ組織に関係人口について学んでいただく機会を提供したり、国・県などの地域に対する関係人口施策の情報を提供したりすることにより、地域コミュニティ活動を地域内外に広げていただくよう願っています。

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

■地域の前線で活動できる人材の育成について

【コウノトリ共生課】

- ・「生きもの検定」については、事業化していません。しかし、2010年度から、市内の小学4～6年生を対象に、コウノトリや豊岡の自然について学び考えたことを発信できる子どもを育てることを目的として、「コウノトリ KIDS クラブ」を結成しており、OB・OGのなかには、生きものに対する関心を深め、個人的に学びを続けている子どもも出てきています。引き続き、「コウノトリ KIDS クラブ」を実施し、子どもたちがコウノトリや豊岡の自然を学び、命の大切さを知る機会を提供していきます。

【こども教育課】

- ・小学3年生から中学3年生までのふるさと教育の中で、豊岡の自然について体験的に学んでいます。美しい自然を未来につないでいくこと、そのために自分にできること等を考えることを通して、地域における自分の役割について考えています。

【こども育成課】

- ・子ども達が身近な自然環境を通して、伸び伸び遊び込むことを大切だと考えています。夢中になって遊び込むことで「探究心」が育まれると考えており、引き続き、いろいろな動植物に出会えるよう、積極的に散歩に出かけるなど、身近な自然に触れられる機会をつくります。

■子どもたちが知る楽しさを学ぶ取組みについて

【コミュニティ振興課】

- ・地域コミュニティ活動のひとつとして、川や田んぼでの生き物調査や観察会、登山、ハイキング、農業教室、浜清掃などのイベントを行っていて、子どもたちが身近な地域の自然知り、楽しむ機会

となっている。

【こども教育課】

- ・学校の学習活動全般に、季節や地域の自然を取り入れた学びを意図的に取り入れています。身近にある豊岡の自然の価値について、子どもたちに改めて気づいてほしいと考えています。

■全小学校区へのビオトープ設置について

【コウノトリ共生課】

- ・田んぼやビオトープなどの湿地は、コウノトリの大切なエサ場であるとともに、子どもたちが、生きもの調査等の体験学習を通して、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心を育てていく貴重な場としてとらえています。2021年度は、市内に31カ所、合計11.9ha（19小学校区に配置）を管理しました。小学校区のなかには、現実的にビオトープを設置することができない校区もあるため、小学校区外のビオトープでの生きもの調査等の体験学習も含めて、すべての小学校で生きものと触れ合う体験学習が提供できるよう取り組んでまいります。

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

■日々のごみ削減の取組みが温暖化対策につながることの周知について

【生活環境課】

- ・循環型社会の構築と脱炭素社会の実現を目指した「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」を策定しました。今後は、市民や事業者に身近でできるプラスチックごみ削減に取り組んでいただくよう、啓発に努めていきます。
- ・近畿大学附属豊岡高等学校の自然科学部（通称：鶴部）と豊岡市環境衛生推進協議会が連携し、3Rの推進や、生ごみ処理とフードロス対策の普及啓発動画を作成しました。わかりやすい内容となっているので、普及啓発に活用していきます。

■イベントや行事の際のごみ分別や減量につながる取組み周知について

【生活環境課】

- ・2021年10月に開催された「第6回コウノトリ未来・国際かいぎ」では、事業者と連携し、プラスチック容器ではなく生分解性のバガス容器（※）に入れた弁当を提供しました。また、弁当の包みには「フードロスをしないようにしましょう」という印刷もいれ、フードロス対策を行いました。現状、ごみ削減に向けたガイドラインは策定していないものの、上記計画に基づき、市が開催するイベントでは、率先して使い捨てプラスチックの削減に努めます。
- ※バガス容器とは、サトウキビの搾りかすと麦を原料とした土壌で100%生分解される容器です。

【コミュニティ振興課】

- ・地域コミュニティ活動のひとつとして、フードロスについて研修会を開いたり、イベントの中でフードライブのコーナーを設けるなど、フードロスの削減に取り組まれています。また、取組みについてのガイドラインがあれば、地域コミュニティ組織主体のイベントや行事の際に、活用するよう周知します。

■子どもへの食品ロス対策の普及啓発について

【生活環境課】

- ・ 前述の生ごみ処理とフードロス対策の普及啓発動画は、子どもたちも理解しやすい内容であることから、今後は学校での視聴を促していき、さらなる啓発に努めます。

【こども教育課】

- ・ 地場産物を取り入れた学校給食、学校園や学校田での栽培活動、SDGs を結び付けた環境教育、家庭科等の学習を通して、食品ロスの現状と対策、自分にできることについて学んでいます。

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

■CO₂ 排出抑制を目的とした移動方法の啓発について

【生活環境課】

- ・ 身近にできる温暖化対策として、公共交通機関の活用や相乗りの推奨、道路がすいている時間帯に通勤するなどの脱炭素行動について市広報で紹介しました。今後、「エコドライブ 10※（エコドライブ普及連絡会推奨）」などの普及啓発にも努めます。

※減速時に早めにアクセルを離す、無駄なアイドリングをやめる、といった運転に係るエコな 10 の取組み。

【都市整備課】

- ・ 環境負荷の低減を図り、また利用者が年々減少し行政の支援がないと維持できない公共交通機関を「利用して維持する」という考えに転換し、公共交通を次代に残す取組を行う事を目的にマイカーから公共交通などによる通勤への転換を促進する「e通勤プロジェクト」を実施しています。各種事業所や市職員への呼びかけ、通勤に適したタイヤ設定を行う事により、参加者の増加を促しています。
- ・ 市民みんなで取組む環境行動として「豊岡ノーマイカーデー」を実施しています。毎週第2水曜日に市内全域の路線バスを500円乗り放題とし、公共交通機関の利用を促しています。これにより、マイカーの利用を抑制し、CO₂ 排出の削減に取り組んでいます。

■生物多様性の保全や地域住民に考慮した再生可能エネルギーの導入について

【生活環境課】

- ・ 市内3箇所にある市の大規模太陽光発電施設（山宮、但馬空港、竹貫）の稼働終了後の撤去費用については、各施設の売電額の一部を毎年積み立てています。また、林地を開発しての大規模太陽光発電施設の設置は生物多様性に大きく悪影響を及ぼすことなどから、屋根置き太陽光発電システムの設置を中心として導入を促進していきます。

【都市整備課】

- ・ 県の「太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例」に基づき、太陽光発電施設の設置届け出を受けていますが、現状、市として今後規制を行うなどの検討はしていません。

■災害時の避難所への再生可能エネルギーの導入と活用について

【防災課】

- ・避難所の設備については、施設の設置者への負担を考慮し、今ある施設をそのまま利用させていただくことを基本としています。再生可能エネルギーの導入についても、多額の費用を掛けて整備することは、施設の設置者にとって大きな負担となるため、施設設置者へ設置を求める考えはありません。

【総務課】

- ・超小型電気自動車「C+POD」を2021年7月に導入しました。蓄電池としても機能するため、災害時にも活用していきます。

【コミュニティ振興課】

- ・29地区コミュニティセンターのうち、太陽光発電設備は11施設、うち2施設に蓄電池を整備しています。今後、大規模改修を行う際には設置条件を考慮し、導入を検討します。

【生活環境課】

- ・2021年の7月に、超小型電気自動車の「C+POD」を導入しました。この自動車は、太陽光発電システム等の再生可能エネルギーでも充電できる電気自動車で、災害時には蓄電した電気を携帯電話の充電や湯沸かし等に活用することもできます。避難施設への太陽光発電システムと蓄電池の設置については、国が公共施設への太陽光発電システムの導入目標を「2030年までに50%、2040年までに100%導入する」と掲げていることから、補助金等の活用や、施設管理者に設置負担の生じないPPAモデル（※）等を活用し、設置できる施設から順次設置していけるよう検討します。

※PPA：Power Purchase Agreement(電力販売契約)の略称。電気消費者が電力事業者に屋根や土地を貸し、電力事業者が発電設備を無償で設置、運用する。電気消費者は自家消費分の電力量を電力会社に支払うシステム。

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

■エコ事業所宣言の普及啓発について

【環境経済課】

- ・エコ事業所宣言は、2017年度に制度を立上げるも、認定した事業所は当初の10社のみで、2018年度以降の申込みもありませんでした。企業にとって、エコ事業所宣言を認定したことのメリットが見出せず、2019年度で終了しました。

■豊岡ブランドを活用した交流促進について

【大交流課】

- ・新型コロナウイルス感染拡大が続く中、交流促進の取り組みは十分に実施出来ておりませんが、ポストコロナを見据え、市内周遊による新たな魅力を提案することで滞在時間の延長及び訪問回数増加を図り、観光需要の喚起と市全域の魅力の認知度向上を目指した事業を進めていきたいと考えています。

【農林水産課】

- ・「コウノトリ育むお米」は、東京都や青森県、沖縄県など国内に留まらず海外でも販売されており、全国、世界中の人々が豊岡市やコウノトリ野生復帰の取組みを知るきっかけとなっています。2021年度は、コロナ禍の中、オンラインで豊岡市の生産者と国内外の消費者をつなぐ取組みを実施しました。

■農繁期等に交流人口を増やす仕組みづくりについて

【大交流課】

- ・観光事業者以外の事業者も観光を視点に新たな事業を展開できるような連携の形を構築し、市民・事業者・来訪者が相互に作用することで、地域全体に大交流を生み出していきたいと考えています。

【農林水産課】

- ・農業分野では担い手不足という課題もあることから、農繁期に交流人口を増やす仕組みづくりについて、調査研究をしていきたいと考えています。

第6部 2021年度の環境に関する取組みについて

豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や要望をまとめています。発行時期の都合上、本意見は2年後の施策に反映されます。

取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分け、記号を付けています。また、市については、主な関係課を載せています。

記号： **市** **市民** **事業者**

(1) 「目標とする姿」ごとの取組みについて

目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

森林を保全するためには、林業ビジネスが成り立つことが必要です。森林環境譲与税をうまく活用し、除間伐の積極的な実施や広葉樹の植林拡充、建築物への地場産材活用など、民間の林業ビジネスの後押しとなる取組みを進めてください。また、林業従事者の減少に伴う人手不足を補う方法を模索していくことも求められます。

市 事業者

市内の竹林が増加し、生態系への悪影響や土砂災害のリスクが高まることが懸念されます。市民が竹林問題を知る機会や伐採する機会（筍掘りを兼ねた竹林整備）をつくるとともに、竹林伐採後の利活用（竹チップの肥料化など）についても情報提供や支援制度を充実させてください。

市 市民 事業者

上記の取組みを推進するには、森林所有者を把握し、協力を求めていくことが必要です。民有林での森林保全が進むよう、森林所有者の把握と、森林保全に対する啓発に努めてください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

農林水産課

農林水産課

地籍調査課
農林水産課

目標像②里山が様々に利用され、関わる人が増えています

有害鳥獣駆除数が高水準を維持しており、農林業への被害面積や被害額も減少しています。一方で、駆除後の適切な処理が困難な課題となっています。駆除後の処理に対する施設整備や、軽トラックへの電動ウインチ設置支援制度の導入などが求められます。

市 市民 事業者

有害鳥獣駆除を進めるうえで、駆除に関わる方だけではなく、事業者による駆除後の肉や皮の有効活用、市民によるジビエ文化の普及や学校給食での利用など、具体的な研究に着手してください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

農林水産課

農林水産課
環境経済課
文化・スポーツ振興課
教育総務課

目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

耕作放棄問題について、所有者だけでなく、地域と一緒にって対策をとるためのコーディネート機能を充実させてください。

市 市民 事業者

耕作放棄地について、後継者がいないわけではなく、現在の仕事を続けると生活できない厳しい実情があります。短期間だけ耕作を引き受けてくれる事業体との連携が求められます。

市 市民 事業者

市民へ地場産物の購入を積極的に促すとともに、学校給食での地場産物や旬菜の利用がさらに進むことを期待します。事業者においても、積極的に地場産物を取り扱い、活用できるような仕組みづくりをしてください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

農業委員会
農林水産課

農業委員会
農林水産課

農林水産課
教育総務課
環境経済課

目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

海岸や河川の清掃活動が継続的に行われるよう、さらなる普及啓発に期待します。漂着ごみは、河川上流部、近隣自治体、海外からも流れ着いています。啓発範囲を広げるとともに、全市民が関心を持って清掃活動等に関わるようにしてください。

市 市民

観光地周辺にごみが多い傾向があります。引き続き、市外から来られる観光客等に対しても、ごみのポイ捨て禁止や分別マナーについて啓発を行うことが求められます。

市 市民 事業者

漁礁や藻場は、魚類にとって繁殖場所や隠れ場として重要な機能を果たします。今後も継続的に漁礁や藻場を設置し、効果検証を行うとともに、「海を守ることの大切さ」の周知に努めてください。

市

【主な関係課】

生活環境課

生活環境課
大交流課

農林水産課

目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

国内外のコウノトリ繁殖地との情報交換や連携を進め、市内でのコウノトリ野生復帰の取組みにフィードバックしてください。また、「コウノトリ横断中」の交通標識を繁殖巣塔周辺だけではなく頻繁に飛来する周辺へ設置したり、耕作者に対して網目の細かい防獣ネットの利用を促すなど、コウノトリの事故を防ぐよう努めてください。

市 市民

市内で外来種が増加している一方、外来種問題について理解している市民が少ないのが現状です。外来種問題について、市民に正しく情報発信し、戦略的な対策を進めてください。

市 事業者

湿地保全ボランティアを増やすため、地元の受け入れ体制の整備や支援、地域内外への発信に努めてください。また、引き続き、市民や事業者が湿地保全などの「小さな自然再生」に取り組むための支援や啓発に努めてください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課
農林水産課

コウノトリ共生課

コウノトリ共生課

目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

伝統や文化を継承していこうと思う市民がいなければ、支援だけしていても意味がありません。支援だけでなく、担い手を育成する心構えや施策展開が求められます。

市 市民 事業者

地域の伝統行事や伝統文化を広く知ってもらい、それを楽しむことで、新たな価値の創出につながる可能性があります。様々な人々が交流し、伝統を守りながら、新しい伝統が作られていくことを期待します。

市 市民 事業者

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事や祭りが中止となり、行事の再開が危ぶまれるものもあります。そうした行事や祭りの再開には十分な支援が求められます。

市

【主な関係課】

文化・スポーツ振興課
生涯学習課
コミュニティ振興課

文化・スポーツ振興課
環境経済課

文化・スポーツ振興課
コミュニティ振興課
各振興局地域振興課

目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

ふるさと学習において、単にガイドブックだけでの授業になるのではなく、「地域の生きものとふれあう体験学習」を実施する意義を理解し、支援していくことが必要です。そうした場をつくるためにも、引き続きビオトープ水田の維持及び増設、活用に取り組みながら、講師派遣等の支援も充実させてください。

市 市民 事業者

コウノトリ KIDS クラブの参加者が増加しており、市内の自然環境についてよく理解している子どもが増えていることがわかります。引き続き、コウノトリ KIDS クラブ事業を展開するとともに、卒業生のフォローアップ体制が充実することに期待します。

市 事業者

市内には、子どもたちが自然に親しむ機会を提供している団体があります。そうした団体の活動が継続されるよう、積極的な支援を期待します。

市 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課
こども教育課
こども育成課

コウノトリ共生課

コウノトリ共生課

目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

ごみ搬入量や計画収集量が減少するよう、ごみ減量化の普及啓発に努めてください。また、ごみの分別やごみ出しが困難な方がおられます。ごみの戸別収集ができる体制や、ヘルパーさん、近隣住民との共助の仕組みづくりが求められます。

市 市民 事業者

「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」の周知を徹底するとともに、市が率先的に使い捨てプラスチック削減につながる行動をしてください。また、市民や事業者の取組みを促す支援や体制作りが求められます。

市 市民 事業者

家庭科の調理実習で食材を無駄にしない切り方やごみの分別指導をするなど、環境に配慮した啓発や教育を徹底してください。また、学校給食や食堂でのフードロスについても、現状を把握したうえで対策をしてください。

市 市民

【主な関係課】

生活環境課
高年介護課

生活環境課

生活環境課
こども教育課

目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

公共交通機関を利用することは、CO₂排出量を削減するだけでなく、交通インフラの維持にもつながります。電車やバスといった公共交通機関の利用、時差出勤や車の相乗りなど移動方法を考える啓発を強化してください。また、EV車普及に向けた支援制度の導入にも期待します。

市 市民 事業者

【主な関係課】

生活環境課
都市整備課

節約意識が環境意識につながることで、反対に環境意識が節約意識につながることも、市民や事業者に理解していただくことが重要です。

市 市民 事業者

脱炭素を目指すうえで、自然を破壊しての再エネ導入ではなく、屋根や駐車場を利用した太陽光発電といった生物多様性や景観へ配慮した再エネ導入が推進されることを求めます。

市 市民 事業者

【主な関係課】
生活環境課

生活環境課
都市整備課

目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

環境経済認定事業に認定されるメリットが求められます。引き続き、認定事業の商品に対する関心を深め、後押しする機会の創出に期待します。

市 事業者

環境経済認定事業に認定されるための支援策も充実されることを期待します。

市 事業者

【主な関係課】
環境経済課

環境経済課

(2) まとめ

第2次豊岡市環境基本計画の推進5年目にあたる今年度の評価は、「よくがんばりました」が2項目(目標像③⑥)、「この調子でがんばろう」が7項目(目標像②④⑤⑦⑧⑨⑩)、「もっとがんばろう」が1項目(目標像①)という結果でした。昨年度は「よくがんばりました」に該当する目標像はありませんでしたが、今年度は2項目が評価を上げて「よくがんばりました」となり、また「もっとがんばろう」の項目数も昨年度に比べてひとつ減りました。このことから今年度の評価を全体としてみると、諸課題への取組みは進んでいるように思われます。

「よくがんばりました」となった目標像③と⑥についてみますと、③は学校給食での豊岡産野菜の利用率が豊岡市独自の目標値を上回っていることなどがその理由です。⑥は歴史博物館「但馬国府・国分寺館」における公開講座の開催数が昨年度に比べて3倍ほど増え、それにともない参加者数も10倍近く増加したことなどによって、こうした評価になりました。

一方で、「もっとがんばろう」となった目標像①ですが、その理由のひとつは徐間伐面積の大幅な減少です。林業の担い手不足が大きな原因だと考えられます。そこで環境審議会としては、林業の担い手を確保するために森林環境譲与税を活用し、林業ビジネスの後押しとなる取組み(建築物への地場産材の活用、広葉樹の植林拡充など)を進めることを提案しています。

環境審議会は、「もっとがんばろう」という評価がなくなるような様々な取組みを、市民や事業者、豊岡市の結節点となって支えていきます。

2023年1月

豊岡市環境審議会 会長 山室 敦嗣
副会長 雀部 真理
委員 青柳 順子・安藤有公子・木築 基弘
高橋 佳大・田原 美穂・戸田 勝之
西垣由佳子・野世 英子・洞田美津子
増原 直樹・村田美津子・山下 正明
吉本 初司

【お願い】

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市市民生活部生活環境課地球温暖化防止対策室

住 所:〒668-8666 豊岡市中央町2番4号

電 話 番 号:21-9136(直)

FAX 番 号:23-0915

E - m a i l:ondankaboushi@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索: